

令和7年度

履修科目概要

保育学科

石川県立保育専門学園

保育学科1年生 シラバス

<目 次>

保育原理	(講義)	虹釜 和昭	1
教育原理	(講義)	泉 克史	2
子ども家庭福祉	(講義)	大脇 修	3
社会福祉	(講義)	南口 政人	4
社会的養護Ⅰ	(講義)	常盤 秀樹	5
社会的養護Ⅱ	(講義)	林 豊	6
保育者論	(講義)	長戸 博英	7
保育の心理学	(講義)	武山 雅志	8
子ども家庭支援の心理学	(演習)	林田 侃次	9
子どもの保健	(講義)	松田 かず子	10
子どもの食と栄養 前期	(演習)	辻 昌美	11
子どもの食と栄養 後期	(演習)	辻 昌美	12
保育の計画と評価	(講義)	長田 智加代	13
保育内容総論	(演習)	志賀浦 由紀子	14
健康	(演習)	平下 政美	15
環境	(演習)	泉 由美子	16
音楽表現	(演習)	池田 晶子	17
造形表現	(演習)	長部 直子	18
音楽表現基礎	(演習)	香田 裕泰	19
造形表現基礎	(演習)	長部 直子	20
言語表現	(演習)	本田 利恵	21
乳児保育Ⅰ	(講義)	岡田 光洋	22
子どもの健康と安全	(演習)	松本 昌子	23
社会的養護Ⅱ	(演習)	山本 雄太	24
社会的養護Ⅲ	(演習)	林 豊	25
保育実習指導Ⅰ	(演習)	黒山美千代・泉由美子	26
保育原理演習	(演習)	菅谷 ゆかり	27
子どもと音楽Ⅰ	(演習)	池田 晶子	28
子どもと音楽Ⅱ	(演習)	谷口 真美	29
音楽Ⅰa 前期	(演習)	池田 晶子	30
音楽Ⅰa 後期	(演習)	池田 晶子	31
音楽Ⅰb 前期	(演習)	表 まり子	32
音楽Ⅰb 後期	(演習)	表 まり子	33
水泳実習	(演習)	中村 司	34
保育と地域社会	(演習)	1年 担任	35
児童文化Ⅰ	(講義)	岡 満雄	36
児童文化Ⅱ	(演習)	長部 直子	37
保育実践演習基礎	(講義)	潟邊裕江・谷内 通	38
文 学	(講義)	岩津 航	39
国語総合表現	(演習)	岡 満雄	40
体育講義	(講義)	中村 司	41
体 育	(実技)	中村 司	42

保育学科2年生 シラバス

<目 次>

子ども家庭支援論 (講義)		大脇 修	43
子どもの理解と援助 (演習)		友杉 エリ	44
人間関係 (演習)		友杉 エリ	45
言葉 (演習)		泉 由美子	46
身体表現基礎 (演習)		中村 司	47
乳児保育Ⅱ (演習)		松本 昌子	48
・(龍雲寺学園パウディア学舎) (演習)		吉岡 紀子	49
(梅光保育園) (演習)		斉梧 史江	50
(双葉こども園) (演習)		濱中 悦子	51
(エンジェル保育園) (演習)		大浜 佳美	52
(聖ヨハネこども園) (演習)		米倉 道子	53
(附属泉こども園) (演習)		泉こども園長	54
障害児保育 前期 (演習)		徳田 茂	55
〃 後期 (演習)		小坂 正栄	56
子育て支援 (演習)		黒山美千代・潟邊裕江	57
保育実践演習 前期 (演習)		谷内 通・潟邊裕江	58
〃 後期 (演習)		各担当教員	59
臨床心理学 (演習)		吉本 真悟	60
臨床心理学 (演習)		潟邊 裕江	61
子どもと運動あそび (演習)		中村 司	62
総合表現 (演習)		池田 晶子	63
造形実践法 (演習)		長部 直子	64
造形実践 (演習)		長部 直子	65
社会的養護Ⅲ (演習)		吉田 智里	66
社会的養護Ⅲ (演習)		川畑 治代	67
音楽Ⅱa (演習)		池田 晶子	68
子どもと音楽Ⅲ (演習)		池田 晶子	69
運動あそび (演習)		中村 司	70
老人介護 (演習)		油野 祥子	71
保育実習指導Ⅱ.Ⅲ (演習)		泉 由美子・黒山美千代	72
特別講義 (講義)		2年担任	73
哲学 (講義)		土佐 明	74
社会学 (講義)		田邊 浩	75
情報処理 (演習)		酒井 寛一	76
外国語 前期 (演習)		細川 真衣	77
〃 後期 (演習)		細川 真衣	78

教科目名	保育原理		必修	講義	2単位
担当者	虹釜 和昭	保育学科 1 学年		前期・後期	
<講師紹介> 民間企業に勤務後、児童養護施設・保育所・学童クラブを運営する社会福祉法人にて 25 年間勤務経験のある実務家教員である。専門分野は「保育制度・政策」「子育て支援」「家族問題」「保育ソーシャルワーク」「社会的養護」など。「保育」の本質とは何かについて、基本的内容を教授したい。 <講義概要・授業目標> 保育の歴史、変遷から基本理念を学ぶ。それを踏まえ保育に必要となる基本的な知識の理解、身につけることを目的とする。乳幼児期の子ども期における保育の意義、子どもの最善の利益及び保育者のあり方を理解する。 <評価基準> 期末試験 70%、リアクションペーパー15%、課題レポート 15%を基本とし、総合的な評価を行う。					
回	講義計画				
1	保育の基本理念	オリエンテーション。保育とは何か、社会制度としての保育を理解する。			
2	保育の意義	子どもの発達と社会的環境における保育の位置づけを理解する。			
3	子どもの権利	子どもの権利擁護と保育の役割などを理解する。			
4	保育制度の基本	保育所保育指針の基本的考え方を理解し、保育の概要を考察する			
5	保育制度の内容	保育所保育指針から保育所保育に関する基本原則を理解する。			
6	「教育」と「養護」	保育所保育指針をふまえ「教育」と「養護」のあり方を理解する。			
7	保育の計画	全体的な計画、指導計画、内容評価を理解する。			
8	幼児児童を行なう施設	育みたい資質・能力、「10の姿」を理解する。			
9	乳児保育の重要性	乳児保育の特質と「非認知能力」の重要性を理解する。			
10	「遊び」が「学び」	「遊び」の持つ意味、発達における「遊び」とは何かを理解する。			
11	子育て支援	子育て支援のあり方とその具体的展開を理解する。			
12	保育機関と地域	保育所・認定こども園と地域社会の関係を理解する。			
13	保育所と幼小連携のあり方	アプローチカリキュラムから幼小連携の意義と重要性を理解する。			
14	保育士の倫理	「保育士倫理綱領」読み解き、意味するところを理解する。			
15	保育の専門性	保育における「専門性」とは何か、その本質を理解する。			
<教科書・参考文献> 田岡由美子編、新時代の保育双書 ともに生きる『保育原理』、(株)みらい ISBN:978-4-86015-434-9 厚生労働省『保育所保育指針解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					

教科目名	教育原理		講義	2 単位
担当者	泉 克史	保育学科	1 学年	後期
<講師紹介>石川県内の公立小学校の教諭・教頭を経験した後に、銀河の里キゴ山で児童の合宿活動の指導やプラネタリウムの解説を行っている。学校現場や現職での経験を生かし、「教育とは何か」の理念とスキルを具体的で分かりやすく授業に取り入れていく。 <講義概要・授業目標> 主に子ども理解と集団作りを柱に教育の持つ力、魅力を幾多の実践を通して気づかせていく。 教育は、なによりも子どもの未来に働きかけ、生きる幸せを描く営みである事を教師たちの実践と理論から気づかせていく。 そのために、一方的な講義に陥ることなく、グループワーク（ペアワーク）を取り入れながら、学生自ら主体的に学ばせる。 <評価基準> テスト				
回	講 義 計 画			
1	イントロダクション	出会うということ 出会い直しをもとめて		
2	教育とはなんだろう①	子どもにとって必要なものとは何か		
3	教育とはなんだろう②	教師・保育士に求められる力とは何か		
4	学校とはなんだろう①	学校のもつ魅力（前編）		
5	学校とはなんだろう②	学校のもつ魅力（後編）		
6	授業とはなんだろう①	なぜ子どもは授業を受けるのだろうか		
7	授業とはなんだろう②	特別活動での学びをどう作るか		
8	子どもとはなんだろう①	子どものいたずらをどうとらえるか		
9	子どもとはなんだろう②	子どもの生きづらさ（ジェンダー問題を含む）とはなんだろう		
10	子どもとはなんだろう③	乱暴な子 おとなしい子をどうみるか （衝動的に暴力や攻撃的な言動を繰り返す子ども理解）		
11	子どもとはなんだろう④	いじめを通して、何を教えるのか		
12	大人とはなんだろう①	校則は、なんのためにあるのか		
13	大人とはなんだろう②	保護者とつながるためには		
14	まとめ	あらためて教育とは何かを考える		
15	試論			
<教科書・参考文献> 『初めての学級づくりシリーズ』大和久勝・丹野清彦編 クリエイツかもがわ 『保育のための教育原理』垂見 直樹 他 ミネルヴァ書房 『感情コントロールに苦しむ子ども』楠 凡之・丹野 清彦 高文研				

教科目名	子ども家庭福祉		必修	講義	2単位
担 当 者	大脇 修	保育学科 1	学年	前期	
<講師紹介> 当学園の園長。社会福祉士。知的障害児者福祉施設支援員、石川県中央児童相談所児童福祉司、児童自立支援施設自立支援専門員及び施設長などの業務を経て現在に至る。					
<講義概要・授業目標> ・子ども家庭福祉の意義と歴史的背景を理解した上で、児童福祉法の体系及び子育て支援の現状と課題を理解する。 ・児童虐待防止を中心に保育と保育を取り巻く関係機関の連携を視野に入れた支援を理解する。					
<評価基準> 受講の態度・出欠状況 提出物 試験					
回	講 義 計 画				
1	子ども家庭福祉の概念と理念				
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向現				
3	子どもの人権擁護				
4	子ども家庭福祉の制度と実施体制				
5	子ども家庭福祉の施設と専門職				
6	少子化と地域子育て支援				
7	母子保健と子どもの健全育成				
8	多様な保育ニーズへの対応子ども家庭福祉の現状と課題				
9	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその対応				
10	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応				
11	社会的養護				
12	障害のある子どもへの対応				
13	少年非行等への対応				
14	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進				
15	地域における連携・協働とネットワーク				
<教科書・参考文献> 新 基本保育シリーズ 第3巻 第2版 子ども家庭福祉 中央法規出版					

教科目名	社会福祉		必修	講義	2 単位
担当者	南口 政人	保育学科第 1 学年	後期		
<講師紹介> 石川県内の児童福祉施設、障害者施設、児童相談所における経験と社会福祉士、介護福祉士の視点を加え、より具体的でわかりやすい講義を心掛けたい。 <講義概要・授業目標> 現代社会における社会福祉の意義と考え方・倫理観を理解し、保育所や児童福祉施設等の保育士として従事する際に必要となる『社会福祉』について基礎知識を学ぶ。 <評価基準> 提出物・授業態度・定期試験・出席状況					
回	講 義 計 画				
1	社会福祉の考え方		・社会福祉とは何か・社会福祉の構造・社会福祉における価値と倫理		
2	社会福祉を取り巻く環境		・少子高齢社会の現状・現代家族の動向・現代の貧困問題 ・諸外国の状況		
3	社会福祉の歴史		・戦前の社会福祉の歴史・戦後の社会福祉の歴史・社会福祉基礎構造改革		
4	社会福祉の仕組み		・社会福祉の法律・社会福祉を支える財政・社会福祉の費用負担		
5	社会福祉サービスの利用の仕組み		・社会福祉事業の範囲・社会福祉サービス利用手続きの仕組み・社会福祉サービス利用者を支える仕組み		
6	社会福祉の機関と施設		・社会福祉を支える機関・社会福祉を支える施設		
7	社会保障		・私たちの生活を守る社会保障・年金制度の仕組み・医療保険の仕組み		
8	低所得者福祉		・所得保障と生活保護・その他の低所得者施策		
9	児童家庭福祉		・児童家庭福祉の法律・児童家庭福祉の施設・子ども虐待への対応		
10	高齢者福祉		・介護保険制度の理念・介護保険制度でどんなサービスが利用できるか		
11	障害者福祉		・障害者福祉について考える・障害者福祉の基本となる理念・障害者（児）福祉の法律・制度		
12	地域福祉		・地域福祉とは・地域福祉を支える機関・団体・地域福祉活動の内容		
13	利用者保護制度		・利用者保護の背景・成年後見制度・日常生活自立支援事業など		
14	社会福祉の担い手		・福祉に関する職場・職権・社会福祉分野の資格・社会福祉専門職が大切にし、守らなければならないこと		
15	まとめ 試験				
<教科書・参考文献> 新・プリマーズ 「社会福祉」 石田慎二／山縣文治 編著 ミネルヴァ書房					

教科目名	社会的養護Ⅰ		講義 0.5 単位
担当者	常 盤 秀 樹	保育学科 1 学年	前期
<講師紹介> 教護院にて夫婦で小舎を担当。12 年間で 68 名のこども達と寝食を共にし、その後は児童相談所で 15 年間、主に児童虐待対応に携わり、現在は乳児院にて赤ちゃんと共に過ごしています。			
<講義概要・授業目標> 児童相談所における虐待や非行問題の対応から始まる社会的養護について、一般的には余り知られることのない児童相談所のロジックや教護院での「暮らし」、乳児院が大切にしていること等から社会的養護とは何か、こどもの権利や最善の利益とは、こどもが自分の人生を自分らしく生きるために必要なことを一緒に考え、こどもに携わる仕事に就く時に必要な資質形成の一助としたい。			
<評価基準> 授業態度 レポート内容			
回	講 義 計 画		
1	自己紹介を兼ねて、授業の目標と計画を説明 こどもの権利条約から 4 本の柱（2 条、3 条、6 条、12 条）を解説、暗記してもらう		
2	社会的養護の入り口である児童相談所の実務と児童虐待対応等について ケースの受理から、一時保護、援助方針の決定、告知、入所に至る過程		
3	児童福祉法に基づく措置決定について（全こども人口の 0.3% というマイノリティ） こどもの意見は取り入れられるのか こどもの最善の利益にかなうのか 措置変更とは 措置解除とその後（ケアリーバーについて）		
4	社会的養護施設の解説とそれぞれの役割 乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、養育里親、（特別養子縁組里親） 児童心理治療施設、母子生活支援施設、（自立援助ホーム）		
5	乳児院は人生のスタートライン 愛着形成から次の養育者につなぐまで （ライフストーリーワーク・ライフストーリーブックについて）		
6	児童自立支援施設（教護院）の歴史と現状から社会的養護のあり方を考える 社会的養護を転々とするこども達の存在は何を意味するのか （自分の人生を自分らしく生きるために）		
7	社会的養護の禁忌である被措置児童等虐待について （後を絶たない保育士による虐待と逮捕事件等はなぜ起きるのか）		
8	これまでの講義内容を踏まえて、社会的養護の感想や意見をレポートにまとめる		
<教科書・参考文献> 特になし			

教科名	社会的養護Ⅰ		必修	講義	1単位
担当者	林 豊	保育学科1学年		前期	
<講師紹介> 県職員の在職中障害者施設、保育専門学園で勤務。平成22年より現障害者支援施設の施設長として勤務。障害児者を中心とした社会的養護に関する講義を行う。					
<講義概要・授業目標> 本来児童は、主として家庭での健全な養育に委ねられるべきであるが、最近は虐待、養護放棄など様々な事情により、家庭で育てられることが困難な児童が増加してきています。 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷や、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 特に障害児者は、その障害の特性や程度等によっては、家庭での養育が困難な場合が多く、障害福祉サービス等を利用する障害児者の社会的養護を中心に学ぶ。					
<評価基準> 出席状況 ・ レポート内容とその内容					
回	講 義 計 画				
1	オリエンテーション 福祉とは 養護の基本原理と現状	講義の内容及び授業計画と参考テキストの紹介 講義方法：毎回授業プリントを準備 福祉の理念について 社会的養護の基本理念と現状について			
2	社会的養護の歴史の変遷	施設養護の歴史と新しい福祉制度について			
3	子どもの権利擁護	社会的養護現場の子どもたちと権利擁護並びに取り組みについて			
4	社会的養護の体系と実施	社会的養護に関わる法律等について 施設養護と家庭養護について			
5	社会的養護の領域と概要	養護系施設、家庭養護、障害系施設について			
6	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理について			
7	施設の運営管理	施設等の運営について			
8	まとめ	まとめ レポート			
<参考文献> みらい×子どもの福祉 社会的養護 喜多一憲：監修 株式会社みらい ボックス 堀場純矢：編集					

教科目名	保育者論		必修	講義	2	単位
担当者	長戸 博英	保育学科 1 学年		前期		
<講師紹介> 認定こども園にて勤務。現場の具体的な事例を交えた講義を行う。 <講義概要・授業目標> 保育者の役割・倫理・制度的位置づけ・専門性・協働・専門職的成長を学ぶ 保育現場の具体的なエピソードを用いながら、保育者に必要な知識や技術を理解する <評価基準> ① 出席状況 (15%) ②授業態度 (15%) ③ミニレポート・テスト (70%)						
回	講 義 計 画					
1	保育者になるということ	保育者の意義について理解する				
2	保育の本質	保育とは何か。保育者の子ども観・保育観について理解する				
3	保育の内容	保育の一日の流れを通して、保育者の役割について理解する				
4	子ども理解	子どもの思いを理解する				
5	子ども理解	子どもの育ちを理解する				
6	子どもへのかかわり	3, 4, 5 歳児へのかかわりについて理解する				
7	子どもへのかかわり	0, 1, 2 歳児へのかかわりについて理解する				
8	保育者の役割	絵本を通して保育環境を理解する				
9	保育者の役割	自然を通して保育環境を理解する				
10	保育者の協働	保育と保護者支援の協働について理解する				
11	保育者の協働	保育専門職間及び専門機関との連携について理解する				
12	保育者の協働	保護者及び地域社会との協働について理解する				
13	保育者の専門性	保育者の専門性について理解する (1)				
14	保育者の専門性	保育者の専門性について理解する (2)				
15	まとめとテスト					
<教科書> なし <参考文献> 適宜紹介する						

教科目名	保 育 の 心 理 学		必修	講義	2単位
担当者	武山雅志	保育学科 第 1 学年	前期		
<講師紹介> 臨床心理学が専門、被災者や被害者の支援に関心。最近ハマっているのはキャンプ、コーヒーマスターの自家焙煎、ジョギング、多肉植物栽培など。					
<講義概要・授業目標> 本講義では子どもの今の姿がどのような過程を経て形作られているのかをしっかりと理解するために、子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、保育の実践に役立てることを目標としている。 そのために身体・運動、認知、言語、感情、社会性、仲間関係といったさまざまな領域の発達がどのように進むのかを学ぶ。また乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について学ぶとともに、それが周囲の環境を通じたものであることを考えてみる。					
<評価基準> 筆記試験 60 %、課題 40 % により評価します					
回	講 義 計 画				
1	はじめに ― 子ども、子育てをめぐる現在の変化を考える				
2	子どもの発達を理解することの意義				
3	子どもの発達と保育				
4	身体・運動の発達				
5	乳幼児・幼児期前期の認知発達				
6	幼児期後期・児童期の認知発達				
7	言語の発達				
8	感情の発達				
9	社会性の発達				
10	仲間関係の発達				
11	子どもの学びと発達				
12	生活と遊びを通じた学び				
13	特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援				
14	子どもの発達と現代的課題 ―子どもの発達と学びの連続性―				
15	まとめ				
<教科書・参考文献> 教科書：本郷・飯島編著（2019）「保育の心理学」 参考文献：授業の際に紹介します。					

教科目名	子ども家庭支援の心理学		講義 2 単位
担 当 者	林田 侃次	保育学科 1 学年	後期
<講師紹介> 金沢大学にて修士号および公認心理師資格を取得。専門は動物心理学。最近スパイスカレーを作ることにはまっているので、おすすめのスパイスやお店があれば教えてください。			
<講義概要・授業目標> 本講義は、子どもの発達と、子どもを取り巻く家庭や社会の役割について学ぶことを目標としている。最初に、乳幼児期から学童期を中心に、人の生涯発達について心理学の基礎的な知識を習得する。次に、子どもにとっての家族や家庭の意義・機能を理解し、現代社会における子育て家庭をめぐる状況や課題について考える。最後に、子どもの心の健康に関する問題や特別なニーズを有する子どもへの支援、子育てにおける地域の役割などについて学ぶ。			
<評価基準> 筆記試験 60%，課題 40%			
回	講 義 計 画		
1	はじめに		
2	乳児期から学童期における発達		
3	思春期から成人期・高齢期における発達		
4	家族システムと家庭発達		
5	親の養育スタイルと世代間伝達		
6	子育て環境の社会的変化		
7	ライフコースとワークライフバランス		
8	特別な配慮を必要とする家庭への支援		
9	子どもを取り巻く生活環境とその理解		
10	子どもの心の健康にかかわる諸問題		
11	障害のある子どもへの理解と対応		
12	保育・子育て支援に期待される役割		
13	災害と子ども		
14	子育てにおける地域の役割		
15	まとめ		
<教科書・参考文献> 教科書：佐久間・福丸編著（2021）『子ども家庭支援の心理学（新 保育ライブラリ）』北大路書房			

教科目名	子どもの保健	必修 講義	2 単位
担当者	松田 かず子	保育学科第 1 学年	前期
<講師紹介> 石川県の保健師として約 40 年勤務。先駆的に虐待問題・感染症対策に力を入れ、地域の保育士との協働作業で取り組んだ経験を伝えていきたい。 <講義概要・授業目標> 少子高齢化、核家族化、共働き、女性の社会進出等社会構造の急激な変化に伴い、日本の子どもを取り巻く環境も大きく変わってきている。これらの状況を踏まえ、子どもの健康生活に関連した具体的な予防活動や実践的な技術を習得できるようにする。			
<評価基準> 筆記試験			
回	講 義 計 画		
1	子どもの心身の健康と保健の意義		
2	健康の概念と健康指標		
3	子どもの健康に関する現状と課題		
4	子ども虐待とその現状		
5	保育所における不適切な養育状態の早期発見		
6	子ども虐待防止対策と新しい動き		
7	子どもの身体的発育・発達と保健		
8	子どもの健康状態の観察		
9	心身の不調などの早期発見		
10	発育・発達の把握と健康診断		
11	主な疾病の特徴 (1) 急性疾患		
12	主な疾病の特徴 (2) 慢性疾患		
13	感染症に対する予防策		
14	その他の疾患に対する予防と対応		
15	筆記試験 教科書「こどもの健康と安全」の第 1 部から出題		
<教科書・参考文献> 教科書：最新 保育士養成講座 第 7 巻 子どもの健康と安全 (全国社会福祉協議会) 参考図書等：新聞、雑誌記事			

教科目名	子どもの食と栄養		必修	演習	1単位
担当者	辻 昌美		保育学科	1学年	前期
<講師紹介> 県内の精神、一般病院、保健所などに約10年間勤務し、その後も乳幼児健診などで子どもの食事相談に携わってきた。それらの経験を生かしてわかりやすい授業を行っていききたい。 <講義概要・授業目標> 小児の身体の特徴や基礎的な栄養学から、食生活が健康づくりの基盤の一つとなっていることを学習する。食育については年間を通して随時取り入れていきます。 <評価基準> 授業の取り組み・態度、課題、復習プリント提出（50％） 定期試験（50％）					
回	講 義 計 画				
1	子どもの栄養と食生活	子どもの食と栄養の学習目的、小児期の栄養の特徴 日本人の健康問題、食生活の問題			
2	小児の発育・発達と栄養	子供の発育の特徴、味覚、摂食、消化吸収排泄機能の発達と特徴			
3	栄養の基礎知識	五大栄養素とは 炭水化物、脂質の働き、多く含まれる食品、消化吸収			
4	栄養の基礎知識	たんぱく質の働き、多く含まれる食品、消化吸収			
5	栄養の基礎知識	三大栄養素について指導資料をグループで作る 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンの特徴			
6	栄養の基礎知識	ビタミンミネラルについて指導資料をグループで作る			
7	栄養の基礎知識	主なビタミン、ミネラルの働き、多く含まれる食品 五大栄養素について復習			
8	栄養の基礎知識	水の働きと脱水症 バランスの良い食事、食品の揃え方、 食事バランスガイド、日本人の食事摂取基準の考え方			
9	食中毒	主な食中毒の特徴と予防方法 食中毒予防3原則 食中毒予防資料をグループで作る			
10	郷土の食文化（食育） 食品の表示	氷室万頭の歴史と栄養的特徴 食品表示法、実際の食品表示 特別用途食品、保健機能食品など表示のある健康食品			
11	妊娠期授乳期の栄養	妊娠期の食生活、トラブルと対応方法 母乳分泌のメカニズム、分泌を促す栄養と食事			
12	乳児期の食生活（母乳）	母乳の利点、成分の変化、自律授乳、母乳不足、卒乳と断乳			
13	乳児期の食生活（母乳）	冷凍母乳の取り扱い方法、母乳の留意点			
14	乳児期の食生活（人工栄養）	母乳、牛乳、調整乳の成分の違い 人工栄養の変遷、調製乳の種類と特徴			
15	食文化（食育） 試験	日本の主な行事食 前期学習内容のペーパーテスト			
<教科書・参考文献> 子どもの食と栄養 堤ちはる 土井正子 萌文書林					

教科目名	子どもの食と栄養		必修	演習	1単位
担当者	辻 昌美	保育学科	1学年	後期	
<講師紹介> 県内の精神、一般病院、保健所などに約10年間勤務し、その後も乳幼児健診などで子どもの食事相談に携わってきた。それらの経験を生かしてわかりやすい授業を行っていききたい。 <講義概要・授業目標> 各成長・発達段階毎の栄養・食生活の重要性・問題点から、子どもの栄養、食生活が生涯にわたる健康の基盤となることを学習する。そして実習を通して、習得した理論を実践できることを目指します。食育については年間を通して随時取り入れていきます。					
<評価基準> 授業の取り組み・態度、課題、復習プリント提出（50％） 定期試験（50％）					
回	講 義 計 画				
1	乳児期の食生活（人工栄養）	調乳器具の種類と特徴 調乳方法			
2	乳児期の食生活（離乳）	離乳の定義、役割、開始と完了 進め方（初期）			
3	乳児期の食生活（離乳）	離乳食 5～6か月食 調理実習			
4	乳児期の食生活（離乳）	実習補足（使用食品の特徴等） 離乳食 食品の使用時期と目安量 進め方（中期から完了期）			
5	乳児期の食生活（離乳）	離乳食 7～8か月食 調理実習			
6	乳児期の食生活（離乳）	実習補足 ベビーフードの種類、長所短所、使用方法 窒息を起こしやすい食品と対処			
7	乳児期の食生活（離乳）	離乳食 9～11か月食 調理実習			
8	幼児期の食生活	実習補足 幼児期の食生活の特徴 栄養必要量 間食の意義と実践			
9	幼児期の食生活	手作りおやつ 調理実習			
10	幼児期の食生活	実習補足 食生活の問題点と対応（偏食、遊び食べ、小食）			
11	学齢期の食生活	身体発育の特徴と栄養量 食生活の問題点（孤、欠、偏、固食等） 学校給食の特徴			
12	食育の基本と内容 保育所給食	食育基本法制定の目的、食育推進基本計画の内容と達成状況 保育所の食育 基本理念と実際 保育所給食の実際と保護者支援			
13	食物アレルギー 障がい者の食生活	食物アレルギーの定義と対応 障がい者の身体、食生活の特徴			
14	疾病時の食生活 試験	子どもの疾病の特徴と食事 後期学習内容のペーパーテスト			
15	行事食、郷土食（食育）	子ども向け、地元食材を使った郷土食、行事食の調理実習			
<教科書・参考文献> 子どもの食と栄養 堤ちはる 土井正子 萌文書林					

教科目名	保育の計画と評価		必修	講義	2 単位
担 当 者	長田 智加代	保育学科	1 学年	後期	
<講師紹介> 法人保育園で38年、こども園に4年勤務し、現在も園長として現役で保育に従事している。常にチャレンジ&パッションの精神で奮闘中である。最も学生が苦慮するのが指導案の作成である。学生と共に学びあいながら、保育の計画と評価の意義をよりわかりやすく理解できるよう努めたい。					
<講義概要・授業目標> 1、保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 2、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する 3、子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造をとらえ、理解する。					
<評価基準> 出席状況、授業態度、理解度、試験結果を加味した総合的な判断で評価					
回	講 義 計 画				
1	保育所保育指針等における保育の目標と計画の考え方	保育の目的と目標、保育の計画と評価の意義、演習課題			
2	保育におけるカリキュラムとは	カリキュラムとは何か、保育におけるカリキュラムの考え方、			
3	全体的な計画の編成	全体的な計画と指導計画の評価、演習課題			
4	子ども理解に基づく PDCA サイクルの循環	子どもの理解、PDCA サイクル、演習課題			
5	全体的な計画とは	全体的な計画とは何か、指導計画との関係、演習課題			
6	長期的な指導計画の作成	長期的な指導計画とは、年間指導計画、(012 歳児)その他の計画作成			
7	長期的な指導計画の作成	3, 4, 5 歳児の指導計画、演習課題			
8	短期的な指導計画の作成	0, 1, 2 歳児の指導計画週案、日案、デイリープログラム、個別の指導計画、演習課題			
9	短期的な指導計画の作成	3, 4, 5 歳児の指導計画 演習課題			
10	指導計画作成上の留意事項	0, 1, 2 歳児の指導計画作成にあたって 演習課題			
11	指導計画作成上の留意事項	3, 4, 5 歳児の指導計画ポイント 演習課題			
12	指導計画の基づく保育の柔軟な展開	子どもの変化に応じた柔軟な保育の展開、保育の見直し 演習課題			
13	保育の記録と省察	保育の省察、保育におけるさまざまな記録、記録を書く意義、演習課題			
14	保育の評価と改善	保育における評価とは、評価を改善に生かす、演習課題			
15	試験				
<教科書・参考文献> 使用教科書:「保育の計画と評価演習ブック」 松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房) 「保育ハンドブック」(石川県保育士会) 参考文献:「教育課程・保育の計画と評価」 岩崎順子共書 (萌文書林) 「保育の計画と評価」 宮川萬寿美編著 (萌文書林)					

教科目名	保育内容総論		必修	演習	1単位
担当者	志賀浦 由紀子	保育学科	1 学年	後期	
<講師紹介> 保育所、幼保連携型認定こども園に48年間勤務した経験を活かし、具体的でわかりやすい授業に心がけたい。 <講義概要・授業目標> 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連を理解する。保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもに発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。保育の多様な展開について具体的に理解する。 <評価基準> 授業の取組み、レポート、テスト					
回	講義計画				
1	オリエンテーション	保育の基本と保育内容			
2	保育の全体構造と保育内容	保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解			
3	保育の全体構造と保育内容	「保育の目標」「育みたい資質能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」			
4	保育の全体構造と保育内容	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景			
5	子どもの発達の特性	乳児保育・満1歳以上3歳未満児の園での一日			
6	子どもの発達の特性	3歳以上児の園での一日・子どもの発達や生活に即した保育内容			
7	泉こども園の行事見学	行事の計画案・実際の行事の見学・行事までの取組み			
8	泉こども園の行事見学	行事での子どもの姿とねらい・保育者の配慮			
9	個と集団の発達	一人ひとりを生かした集団形成・異年齢保育・協同的な学び			
10	養護と教育・子どもの主体性	養護と教育が一体的に展開する保育・子どもに主体性の尊重			
11	環境を通して行う保育	「環境」のねらいと内容・計画的な環境の構成			
12	保育園・こども園のあそび	指導案のねらい・経験する内容・環境構成・保育者の援助			
13	生活や遊びによる総合的な保育	ねらいが総合的に達成されること・生活や発達の連続性に考慮した保育			
14	子育て支援・小学校との連携	保護者や地域・小学校との連携・特別な配慮を必要とする子			
15	試験・まとめ	授業のふりかえり・まとめのテスト・長時間保育・多文化共生の保育			
<教科書・参考文献> 子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論 (北大路書房) 保育所保育指針 認定こども園教育保育要領 幼稚園教育要領 泉こども園の計画書					

教科目名	健 康		必修 演習 1 単位
担 当 者	平下 政美	保育学科 1 学年	後期
<講師紹介> 大学において健康科学の講義を長年展開した。現在は広く幼児から高齢者までの健康づくり教室を行っている。 <講義概要・授業目標> 生きる力を育むには神経機能が著しい幼児期の生活習慣が強く影響する。また、今日社会問題ともなっている成人の生活習慣病と幼児期の身体活動量との関連概説しながら、幼児期における健康な心と身体を育て、この時期に自ら健康で安全な生活を作り出せる力を養う。 <評価基準> レポート2回（50％） 筆記テスト（40％） 学習態度（10％） として合計点を評価する。			
回	講 義 計 画		
1	人間と健康	健康の定義・我が国における健康づくり施策	
2	子どもの体力 ①	幼児期の体の発達 スキャモンの発育・発達	
3	子どもの体力 ②	幼児期の体力と運動 体力とは？ 幼児期の体力の特性	
4	子どもの体力 ③	子どもの体力測定法 体力・身体活動量の地域較差	
5	健康な生活習慣 ①	子どもの健康生活リズム 睡眠と運動	
6	健康な生活習慣 ②	食習慣・食育・食習慣の形成	
7	健康支援と健康管理 ①	感染性疾患 インフルエンザ 食中毒予防 など	
8	健康支援と健康管理 ②	衛生管理 てあらい、施設内・外 砂場、プール など	
9	健康支援と健康管理 ③	幼児の肥満対策 腸内細菌 レポート提出	
10	衛生管理	室内の衛生管理	
11	屋外での事故予防	子どもの体温調節 熱中症予防 寒冷疾患	
12	メタボリックシンドローム	幼児期の運動習慣と成人の高血圧症 脂質異常症 糖尿病との関連	
13	ロコモティブシンドローム	幼児期の運動習慣と成人の整形外科疾患との関連 レポート提出	
14	テスト	筆記テスト	
15	まとめ	保育者の健康教育 アクティブラーニング	
<教科書・参考文献> 現代人のための健康づくり 石川県大学健康教育研究会（北国新聞社出版局）ISBN 978-4-8330-1972-9			

教科目名	環 境		必修 演習	1 単位
担当者	泉 由美子	保育学科第 1 学年	前期	
<講師紹介> 当学園職員。公立幼稚園・保育園で 40 年間勤務。現場での豊富なエピソードをこどもの発達を通して環境教育の大切さを学生に伝える。 <講義概要・授業目標> 子どもたちを取り巻く身近な環境との関わりとして、人的・物的・自然・社会がある。 これらをどう絡ませ合い、日々の活動に創意工夫を加えて活動していくかが保育者の資質に大切な要素と考える。 そこで、授業では、身近な環境構成・自然環境・社会環境を主として取り上げ、乳幼児が保育所（園）・子ども園において安定した生活と充実した活動ができるように、保育者として指導する事項と支援する事項の基本的内容を実践例から学びを深める。				
《評価基準》 授業態度 授業ノートの整理・まとめ 筆記試験				
回	講 義 計 画			
1	保育と環境・子どもにとっての「環境」	保育における子どもの環境について知る 学園の周りの環境に興味を持つ		
2	領域「環境」のとらえ方と考え方	子どもにとって魅力ある園環境とは 保育の基本をふまえた領域「環境」とは		
3	保育環境の構成	エピソードから「環境」について考える 自分たちの幼児期を振り返る		
4	友だちや保育者とともに育つ	人的環境について知る		
5	豊かな生活を育む環境	物的環境について知る		
6	生活に必要な文字や数、量などにふれる	文字や数量への興味関心に関する事例		
7	子どもたちを取り巻く社会の文化にふれる	社会的環境について知る 園生活における行事の意義を知る		
8	生き物や植物、自然の事象に関心を持つ	自然環境について知る		
9	自然に自分から触れるようになるには	保育環境としての自然		
10	自然に触れる体験の意味と大切さ ①	季節を感じる・自然の変化に気づく		
11	自然に触れる体験の意味と大切さ ②	遊びの中で物事の法則性に気づく		
12	子どもを守る安全な環境とは	「安全」「命を守る」ことが絶対条件		
13	身近な施設・地域・さまざまな文化との関り①	施設・地域・文化との関りの指導法		
14	行事のかかわりの実践について ②	保育における行事の意義・留意点など		
15	筆記試験・まとめ・授業ノート提出			
<教科書・参考文献> 実践例から学びを深める 保育内容・領域「環境 指導法」 わかば社 保育所保育指針解説 認定こども教育・保育要領解説				

教科目名	音楽表現		必修	演習	0.5 単位
担当者	池田 晶子	保育学科第 1 学年		前期	
<講師紹介> 当学園職員。特別支援学校の音楽教諭として 10 年以上勤務。手遊びや歌あそびに触れながら、音楽の楽しさを伝えていきたい。 <講義概要・授業目標> こどもの発達を知り、こどもの豊かな感性と表現しようとする意欲を育て、創造性を豊かにするための適切な援助ができるよう理論と演習から学ぶ。 わらべうた、手遊び歌、手合わせ歌、動きを伴う歌などを演習し、音楽を表現することについて考える。また、子どもの興味・関心に対応できる力、即興力などを身に付ける。 <評価基準> 手遊び、歌あそびなどの発表を実技試験とする。 授業出席 及び平常点（授業中の取り組みやプリント評価）も加味する					
回	講 義 計 画				
1	幼児の表現活動と音楽について		手あそび歌紹介		
2	幼児の発達について		手あそび歌紹介		
3	手あそび・歌あそびグループ発表		〃（わらべうた等）		
4	手遊び・歌あそびペア計画・準備		〃（絵描き歌）		
5	手遊び・歌あそび ペア発表				
6	手遊び・歌あそび 個人発表（個人）計画		〃（手話歌・パネルシアター）		
7	手遊び・歌あそび歌等（個人）計画 発表準備				
8	手遊び・歌あそび等（個人） 発表・まとめ				
<教科書・参考文献> ○手あそび・うたあそび 阿部直美 編著 ナツメ社					

教科目名	造形表現		必修	演習	0.5単位
担当者	長部 直子		保育学科第 1 学年		前期
<講師紹介> 当学園職員。特別支援学校の美術教諭として勤務経験あり。泉こども園の造形教室も担当している。上手に表そうとするよりも、造形活動を通して、子どものように五感を研ぎ澄まし、感じたことや考えたイメージを自分なりに表現する喜びを感じることを重視し、授業を展開したい。 <講義概要・授業目標> 創造活動を通して子どもたちの望ましい発育を支援・援助できるように、造形素材に関する知識や経験を得ることを目指す。また、造形活動を楽しむ姿勢を身につけ、精神的な面でも子どもたちの健全な成長を支援できる保育士としての資質の向上を目指す。					
<評価基準> 授業態度＋出席日数＋提出物					
回	講 義 計 画				
1	オリエンテーション	オリエンテーション			
2	造形体験	小麦粉粘土を作って遊ぼう			
3	造形体験	水性サインペンのにじみ絵で遊ぼう			
4	造形体験	新聞紙で遊ぼう			
5	造形体験	染め紙による手作りうちわ			
6	造形体験	氷絵の具を作って遊ぼう			
7	パネルシアター	製作			
8	パネルシアター	製作			
<教科書・参考文献> 技法あそび実践ライブ ひかりのくに					

教科目名	音楽表現基礎	講義	1 単位
担当者	香田裕泰	保育学科第 1 学年	前期
<講師紹介> バス歌手。ドイツの歌劇場でオペラ歌手の経験あり。			
<講義概要・授業目標>			
子供の発達と音楽表現に関する知識と技術について学ぶ。いろんな音や音楽の刺激が子供の脳の発達には欠かせません。子供の世界の中心は「あそび」です。保育はこの「あそび」抜きには成立しません。保育者がさまざまな環境や状況に応じて「子供のための音楽活動」を支え、子供の経験や様々な表現活動と音楽活動を結びつける遊びの展開について学びます。音楽の基礎と音楽の効果を丁寧に学びましょう。			
<評価基準>			
「サウンド・スケープ」「Sound and Silence」「黒鍵の音楽」「オノマトペと図形楽譜」「ボディー・パーカッション」等の作品提出。			
回	講 義 計 画		
1	長音階と短音階の成り立ちを学ぶ。		
2	日本音階の成り立ちを学ぶ。		
3	ピアノの黒鍵だけのメロディーの創作。「黒鍵の音楽」。		
4	リズムの基礎を学ぶ。ボディー・パーカッションの創作。		
5	グループによるボディー・パーカッションの創作。		
6	オペラ「ラ・ボエーム」の鑑賞を通じて、音楽の効果について学ぶ。		
7	楽典とコードネームの基礎。(第1回) ドミナント 7th について学ぶ。		
8	マリー・シェーファーの提唱した「サウンド・スケープ」について学ぶ。		
9	「オノマトペ」と「図形楽譜」について学ぶ。		
10	楽典とコードネームについて学ぶ。(第2回) 借用和音。		
11	簡易伴奏のつけ方を学ぶ。簡単な楽曲を写譜し暗譜する。		
12	自分で見つけた「サウンド・スケープ」を発表する。		
13	「黒鍵の音楽」「ボディー・パーカッション」を発表する。		
14	ジョン・ペインターの「Sound and Silence」(音楽の語るもの)を参考に、現代音楽からアプローチする。1回目。		
15	「Sound and Silence」の発表とまとめ。		
教科書・参考文献			
改訂版 最新・幼児の音楽教育 井口太・水崎誠 編著 朝日出版社			

教科目名	造形表現基礎	必修	演習	1単位
担当者	長部 直子	保育学科 第1学年	後期	
<講師紹介> 当学園職員。特別支援学校の美術教諭として勤務経験あり。泉こども園の造形教室も担当している。上手に表そうとするよりも、造形活動を通して、子どものように五感を研ぎ澄まし、感じたことや考えたイメージを自分なりに表現する喜びを感じることを重視し、授業を展開したい。 <講義概要・授業目標> 「美術」に対する知識、理解を深め、保育士としての「創造活動」を楽しむ姿勢、態度を養う。また造形活動を行っていく上で必要となってくる素材の知識、技術の習得を図る。教材としては、保育の現場で活用できるものを中心に製作活動を行い、「造形表現」の演習と連携を図りながら、基礎的な知識と共に実用性のある内容を学習する。 <評価基準> 授業態度、出席状況、レポート、提出作品等				
回	講 義 計 画			
1	オリエンテーション			
2	トイレットペーパーによる衣装づくり	加工しやすい素材を使った衣装の共同制作		
3	トイレットペーパーによる粘土づくり	トイレットペーパーを使った手作り粘土づくり		
4	毛糸のポンポン作り	クリスマスリースの制作		
5	自然物を使った工作	クリスマスリースの制作		
6	モダンテクニック①	デカルコマニー、ドリップング、フロッタージュ、スパッタリング、などの技法指導		
7	モダンテクニック②	スクラッチ、スタンピング、パチック、パス・コンテの指ぼかしなどの技法指導		
8	折り紙ワールド①	折り紙＋モダンテクニックによる作品作り（構想）		
9	折り紙ワールド②	折り紙＋モダンテクニックによる作品作り（制作）		
10	折り紙ワールド③	折り紙＋モダンテクニックによる作品作り（制作・鑑賞）		
11	グリーティングカード①	ポップアップの技法の説明 保育行事でのメッセージカード作り（構想）（制作）		
12	グリーティングカード②	保育行事でのメッセージカード作り（制作）		
13	パネルシアターのパネル作り	パネルシアターの個人用のパネルの制作		
14	講義：子どもの絵の発達について			
15	講義：指導案の書き方の基本			
<教科書・参考文献> 技法あそび実践ライブ（ひかりのくに）				

教科目名	言語表現	演習	1単位
担当者	本田 利恵	保育学科1学年	後期
<講師紹介> 当学園を卒業。小松市内の保育現場で保育教諭として勤務し、保育・教育、保護者支援・子育て支援、保育者の育成に日々取り組んでいる。 学生の皆さんと共に演習等を通して学びを深めていきたい。 <講義概要・授業目標> 子どもの言語発達にかかわる児童文化財をもちいて、保育の中で子どもの表現やことばを豊かに育んでいくにはどのようにするのが効果的かを理論や演習を通して学び、保育現場で役立つ知識や技術を身につけていきたい。			
<評価基準> 出席状況、授業態度、演習や発表内容などを総合的に評価			
回	講 義 計 画		
1	はじめまして自己紹介：自分を語り、相手を知る。		
2	児童文化財とは 児童文化と表現について		
3	乳幼児のことばの発達		
4	児童文化財とことば：保育内容領域「言葉」とのかかわりについて		
5	子どものことばを豊かに育む保育者の役割		
6	言語表現技術を学ぼう（おはなし）		
7	言語表現技術を学ぼう（絵本）		
8	言語表現技術を学ぼう（紙芝居）		
9	言語表現技術を学ぼう（パネルシアターと人形劇）		
10	言語表現技術を学ぼう（ペープサート）：身近な素材で作ってみよう（舞台作り）		
11	言語表現技術を学ぼう（ペープサート）：身近な素材で作ってみよう、演じてみよう。		
12	言語表現技術を学ぼう（ペープサート）：身近な素材で作ってみよう、演じてみよう。		
13	児童文化財をもちいた実践発表		
14	児童文化財をもちいた実践発表		
15	まとめ		
<教科書・参考文献> 保育者のための言語表現の技術 古橋和夫編著 （萌文書林） 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領			

教科目名	乳児保育Ⅰ		必修	講義	2単位
担当者	岡田 光洋	保育学科第1学年	後期		
<講師紹介> 当学園を卒業以来、金沢市、小松市の現場で保育教諭として勤務し、現在は小松市西軽海町、わかばにしかるみこども園の園長として日々保育・教育に取り組んでいます。授業では、現場の話をまじえながら、皆さんと一緒に子どもの発達や保育者のあり方について学んでいきたい。 <講義概要・授業目標> 基礎的事項（乳児保育の理念や現状、運営体制など）や、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容を理解し、保育の実践力の習得につなげる。					
<評価基準>授業の取り組み・態度・課題の提出 50% テスト 50%					
回	講義計画				
1	「乳児保育」とは何か				
2	乳児保育の成り立ち				
3	乳児保育を支える基本① …個々の発育・発達・健康状態に基づく保健的な対応				
4	乳児保育を支える基本② …一人ひとりに合わせた応答的なかわり				
5	乳児保育を支える基本③ …3歳未満児を中心に据えた職員間の協力				
6	乳児保育を支える基本④ …十分な探索活動を保障する安全な環境の整備				
7	乳児保育を支える基本⑤ …3歳未満児の自発的な活動の尊重と促進				
8	乳児保育を支える基本⑥ …保護者とのよりよい関係づくり				
9	0歳児の発達と保育者のあり方について学ぶ				
10	1歳児の発達と保育者のあり方について学ぶ				
11	2～3歳児の発達と保育者のあり方について学ぶ				
12	乳児保育の方法と計画・記録・評価				
13	家庭・園・地域における子育て支援				
14	乳児保育における次世代のキーワード				
15	テスト				
<教科書> 乳児保育 ―子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み― 入江慶太 編著 （教育情報出版）					

教科目名	子どもの健康と安全		必修	演習	1単位
担当者	松本昌子	保育学科	1学年	後期	
<講師紹介> 当学園職員。看護師・助産師。県庁、主に県立中央病院で勤務。小児病棟・NICU/GCU・産科病棟で小児医療と関わっていた勤務経験をもとに講義する。					
<講義概要・授業目標> 子どもは常に発育・発達しつつある存在であることを認識しそれを保障するために、保健的観点を踏まえた保育環境や援助、関連するガイドライン等に基づく衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策について具体的に理解する。また、子どもの体調不良や健康、安全管理に関わる対応や組織的取り組み、保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。					
<評価基準> ①出席状況 ②授業態度 ③提出物 ④テスト					
回	講義計画				
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	(1) 子どもの健康と保育の環境 (2) 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理			
2	保育における健康及び安全の管理	(1) 屋内施設の衛生管理			
3	保育における健康及び安全の管理	(2) 屋外施設の衛生管理			
4	子どもの体調不良に対する適切な対応	(1) 子どもの起こりやすい体調不良時のケア			
5	子どもの体調不良に対する適切な対応	(2) 嘔吐物の処理			
6	保育における健康及び安全の管理	(1) 子どもに起きやすい事故の応急手当			
7	保育における健康及び安全の管理	(2) 子どもに起きやすい事故の応急処置			
8	保育における健康及び安全の管理	(3) 救急処置及び蘇生法			
9	感染症対策	(1) 感染症の集団発生の予防			
10	感染症対策	(2) 感染症発生時と罹患後の対応			
11	保育における保健的対応	(1) 保育における保健的対応の基本的な考え方			
12	保育における保健的対応	(2) 3歳未満児への対応 (3) 個別的な配慮を要する子どもへの対応			
13	健康及び安全の管理の実施体制	(1) 保育における保健活動の計画及び評価			
14	健康及び安全の管理の実施体制	(2) 母子保健対策と地域の関係機関等との連携			
15	筆記試験・まとめ	テスト			
<教科書・参考文献> ・保育所保育指針解説 フレーベル館 ・子どもの健康と安全 ななみ書房					

教科目名	社会的養護Ⅱ		講義	1単位
担当者	山本 雄太	保育学科 1 学年	後期	
<講師紹介> 保育園で3年、児童養護施設で16年間の勤務経験あり、現場目線、子ども目線での社会的養護を解説したい。 <講義概要・授業目標> 【概要】 施設や里親家庭で暮らす子どもがどのような思いを抱いて暮らしているのか、そこで生活する子どもに対してどのような支援が必要であるかを具体的なケースをもとに学生と共に考えていきたい。 【目標】 ・社会的養護を担う専門職としての保育士に求められる基本的知識や具体的な援助方法について理解する。 ・多様な課題を抱える子どもや家族を支援する方法を体得し、実践に活かすことができる				
<評価基準> 授業への取り組み姿勢 レポート試験により判断する。				
回	講 義 計 画			
1	社会的養護の理解 ・オリエンテーション（講師紹介、自己紹介等） ・DVD視聴（実際の現場の様子を知る） 質疑応答 次回授業の説明			
2	アドミッションケアについて学ぶ ・一時保護、施設入所、里親委託の説明 ・受け入れについて事例を通して学ぶ。 質疑応答 次回授業の説明			
3	インケアについて学ぶ ・豊かな暮らしのために（衣食住について演習を通して学ぶ） ・治療的なかわり 質疑応答 次回授業の説明			
4	リービングケアについて学ぶ ・自立支援について事例を通して学ぶ。 質疑応答 次回授業の説明			
5	アフターケアについて学ぶ ・アフターケアの実践を聞き学ぶ 質疑応答 次回授業の説明			
6	ソーシャルワークについて学ぶ ・退所に向けたソーシャルワークをについて学ぶ 質疑応答 次回授業の説明			
7	記録と評価学について学ぶ ・記録の必要性 ・自己評価の大切さ 質疑応答 次回授業の説明			
8	まとめ レポート			
<教科書・参考文献> 無し				

教科名	社会的養護Ⅱ		講義 0.5単位
担当者	林 豊	保育学科1学年	後期
<講師紹介> 県職員在職中に障害者施設、保育専門学園で勤務。平成22年より現障害者支援施設の施設長として勤務。障害児者を中心とした社会的養護に関する講義を行う。			
<講義概要・授業目標> 社会的養護「Ⅰ」で習得した基礎知識を踏まえて具体的に障害児者の養護についての理論をさらに深め、障害児者にかかわる諸問題について解決の方向性を理解することを目的とする。さらに社会的養護の課題や障害者総合支援法などについて理解し、激しく変化する福祉施策等についても学んでいく。			
<評価基準> 出席状況 ・ レポート提出とその内容			
回	講 義 計 画		
1	オリエンテーション 社会的養護の理解と支援 内容	講義の内容及び授業計画の紹介 講義方法：毎回授業プリントを準備 社会的養護における子どもの理解と支援内容	
2	施設養護の実際	障害児者の特性等について 施設養護の特性および実際について	
3	障害児者施設での支援の 実際	施設での日常生活、生活支援の具体的内容について	
4	事例検討	具体的事例検討	
5	社会的養護に関わる専門 的技術	障害児者の専門性に関わる知識・技術等について	
6	障害者総合支援法と変化 する施策	障害者総合支援法の内容理解と変化する障害福祉施策につい て	
7	障害施設での施設支援の 今後の課題と問題点	施設での生活支援の留意事項 地域の中で生活するために	
8	まとめ	まとめ レポート	
<教科書・参考文献>			

・教科科目名	保育実習指導Ⅰ		必修	演習	2 単位
担当者	黒山 美千代 ・ 泉 由美子		保育学科第 1 学年		通 年
<講師紹介> 黒山 美千代: 当学園職員。県職員(福祉職)として児童相談所、障害児(者)施設、保健福祉センターで勤務。 泉 由美子; 当学園職員。公立幼稚園・保育園で 40 年間勤務。現場での豊富なエピソードから、現場で求められている保育者が大切にしなければならないことや実習前後の取り組みについて学生に知らせる。 <講義概要・授業目標> 1. 保育実習Ⅰの意義・目的を理解する。 2. 保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、実習の意義を確認し、自己の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの権利と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 事前指導として学園において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。 5. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 6. 実習の事後指導を通して、実習のまとめと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にし、次につなげる。 <評価基準> 授業態度、実習における事前・事後学習への取り組み・実習施設の評価・巡回時の様子・記録物の内容・提出状況などを勘案した総合評価。授業はすべて出席することが前提。					
回	講 義 計 画			時間	担当者
1	保育実習Ⅰとは①	「保育実習Ⅰ」の位置づけを学ぶ		2	泉
2	保育実習Ⅰとは②	保育実習の意義と目的を理解する。実習の段階を学ぶ		2	泉
3	保育士の役割	保育士の職務を理解し、その役割について学ぶ		2	泉
4	施設実習とは①	施設実習の意義と目的を理解する		2	黒山
5	施設実習とは②	児童養護施設について		2	黒山
6	施設実習とは③	障害児・者施設について		2	黒山
7	保育所実習とは①	保育所実習について①		2	泉
8	保育所実習とは②	保育所実習について②		2	泉
9	実習を経験した2年生の話を聞く	先輩の実習体験を聞く		2	黒山・泉
10	実習のねらいを定めよう①	ねらいのモデルから学ぶ		2	黒山・泉
11	実習のねらいを定めよう②	10日分のねらいを考えよう		2	黒山・泉
12	実習記録の書き方①	記録をとることの意義を考える		2	黒山・泉
13	実習記録の書き方②	実習記録の具体的内容を確認しその記録方法を学ぶ		2	黒山・泉
14	保育実習の心得について	実習に向けての基本的な心構え等の準備、個人票の作成		2	黒山・泉
15	オリエンテーションについて	オリエンテーションの注意事項		2	黒山・泉
16	オリエンテーションについて	実習先との連絡 日程の調整		2	黒山・泉
17	事前訪問について(施設)①	実習先でのオリエンテーション		2	施設担当者
18	事前訪問について(施設)②	実習先の概要について		2	施設担当者
19	事前訪問について(施設)③	実習計画についての打合せ		2	施設担当者
20	事前訪問について(施設)④	実習先の見学		2	施設担当者
21	事前訪問について(保育所)①	実習先でのオリエンテーション		2	保育所長
22	事前訪問について(保育所)②	実習先の概要について		2	保育所長
23	事前訪問について(保育所)③	実習計画についての打合せ		2	保育所長
24	事前訪問について(保育所)④	実習先の見学		2	保育所長
25	指導案の書き方について	部分実習の準備をする。実際に書いてみる		2	泉
26	施設実習を終えての反省・課題について①	実習のまとめと発表① 講師による指導・助言		2	黒山
27	施設実習を終えての反省・課題について②	実習のまとめと発表② 講師による指導・助言		2	黒山
28	保育実習を終えての反省・課題について①	実習のまとめと発表① 今後の学習課題を明確にする		2	泉
29	保育実習を終えての反省・課題について②	実習のまとめと発表② 今後の学習課題を明確にする		2	泉
30	実習Ⅰを終えて	自己評価を行い、今後の課題が次年度につながるようにする		2	黒山・泉
<教科書・参考文献> ・施設実習パーフェクトガイド わかやま社 ・幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド わかやま社 ・保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 ・実習の手引き(保育専門学園作成のもの) ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館					

教科目名	保育原理演習			必修	演習	0.5	単位
担当者	菅谷 ゆかり		保育学科1学年		前期		
<講師紹介> 附属泉こども園園長。これまで、知的障害者施設、児童自立支援施設、発達障害支援センターに勤務。平成23年から附属泉保育所（現附属泉こども園）に勤務。 <講義概要・演習目標> こども園の担当児を決め観察する。実際の保育に参加し、子どもとふれあう体験をする。レポートを書き、話し合うことで、子どもの発達や個人差を理解し、集団の中での子どもの行動や保育者として子どもの関わりの基本を学ぶ。							
<評価基準> 出席日数、態度、レポート提出とその内容							
回	講 義 計 画						
1	保育原理演習について						
2	観察 : 保育施設の環境について						
3	参加 : 担当児と関わってみよう						
4	参加 : 発達をふまえて関わるⅠ						
5	参加 : 発達をふまえて関わるⅡ						
6	参加 : 集団の中で関わるⅠ						
7	参加 : 集団の中で関わるⅡ						
8	参加 : まとめ						
<教科書・参考文献> 参考文献 : 保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 泉こども園 保育の計画書							

教科目名	子どもと音楽 I		必修 演習 0.5 単位
担当者	池田 晶子	保育学科第 1 学年	後期
<講師紹介> 当学園職員。特別支援学校の音楽教諭として 10 年以上勤務。歌あそびや器楽合奏に触れながら、音楽の楽しさを伝えていきたい。 <講義概要・授業目標> 幼児が扱う楽器について理解を深め、正しい奏法を習得する。また、読譜力を高め、より良い演奏を目指し、アンサンブルを楽しむ。 <評価基準> 楽器演奏（アンサンブル）、レポート内容、提出物および 平常点（授業中の出欠、取り組み）による			
回	講 義 計 画		
1	子どもの音楽的発達について		
2	打楽器奏法の基礎技能 器楽アンサンブルⅠ練習 ①		
3	器楽アンサンブルⅠ練習 ②		
4	器楽アンサンブルⅠ 発表 器楽アンサンブルⅡ練習 ①		
5	器楽アンサンブルⅡ練習 ②		
6	器楽アンサンブルⅡ 発表 器楽アンサンブルⅢ練習 ①		
7	器楽アンサンブルⅢ練習 ②		
8	器楽アンサンブルⅢ 発表 まとめ		
<教科書・参考文献> 最新・幼児の音楽教育 幼児教育・保育士要請のための音楽的表現の指導 代表編著 井口 太 朝日出版社			

教科目名	子どもと音楽Ⅱ			必修	演習	0.5単位
担当者	谷口 直美	保育学科	第1学年	後期		
〈講師紹介〉						
専門大学で音楽教育専攻。現在、県内の幼稚園・保育園・子ども園・大学で講師を務める。						
日常生活の中にあふれているリズムや音を感じ、音楽を全身で表現する楽しさを伝えていきたい。						
〈講義概要・授業目標〉						
「子どもと音楽Ⅱ」では、保育内容「表現」を音楽の側面から具体的な方法で学ぶことを目標とする。						
子どもの豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするため、保育者自身が積極的に音楽とつながり表現力・音楽性を高め考えながら学んでいく。子どもの成長段階に沿った様々な表現を見出していくことができるよう自身の経験を重ねていく。						
〈評価基準〉実技 ＝ 課題に沿った身体表現 50% 筆記 ＝ 授業内提出物や修了試験 50%						
回	講義計画					
1	即時反応編（教科書 P20～）		聴感覚の発達過程を理解し、ダルクローズシステムを体験			
2	音の高低・強弱・遅速編 （教科書 P62～）		音の種類や音の3原則を知る			
3	基礎リズム編（教科書 P42～）		規則的な動き＝拍を体験し、基本的なリズムを理解			
4	リズムパターン・フレーズ編 （教科書 P82～）		拍からリズムパターン・フレーズを体験理解			
5	ソルフェージュ編 （教科書 P120～）		わらべうたや童謡など、声を使った遊びの体験			
6	季節と行事編（教科書 P142～）		季節や行事でうたわれる歌を通じて音楽表現する方法を体験			
7	歌あそび編（教科書 P176～）		身近な教具や道具を使った指導を考える			
8	まとめ・修了テスト		課題に沿った身体表現の実技試験とレポート提出			
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
〈教科書・参考文献〉						
教科書：「みんなでやろうリトミック」板野 平指導（ひかりのくに）						

教科目名	音楽 I a		必修	演習	1 単位
担当者	池田 晶子	保育学科第 1 学年		前期	
<講師紹介> 氏家祐子、櫻町総子、田頭孝子、西川章子、西森典子、増森由貴子、若狭理恵 氏の7名の講師陣により個人レッスンの形で、ピアノ奏法や保育現場で使える弾き歌いについての指導を行う。 <講義概要・授業目標> ・ピアノ奏法について学ぶ。基本的奏法からより高度な奏法へ、個人のレベルに合わせて技術の伸長を図る。 ・弾き歌い（ピアノ伴奏を弾きながら歌うこと）ができるように、たくさんの曲を演習、習得する。 <評価基準> 実技試験（指定されたピアノ課題曲から、担当の先生と相談して決めた曲と予め報告した弾き歌いの2曲のうち、直前に指定された曲） および 平常点（レッスンの様子、練習量、弾き歌い曲の習得数：4曲以上、曲数に応じて加点）による					
回	講 義 計 画				
1	ピアノ曲 レッスン ①	弾き歌い曲 レッスン ①			
2	ピアノ曲 レッスン ②	弾き歌い曲 レッスン ②			
3	ピアノ曲 レッスン ③	弾き歌い曲 レッスン ③			
4	ピアノ曲 レッスン ④	弾き歌い曲 レッスン ④			
5	ピアノ曲 レッスン ⑤	弾き歌い曲 レッスン ⑤			
6	ピアノ曲 レッスン ⑥	弾き歌い曲 レッスン ⑥			
7	ピアノ曲 レッスン ⑦	弾き歌い曲 レッスン ⑦			
8	ピアノ曲 レッスン ⑧	弾き歌い曲 レッスン ⑧			
9	ピアノ曲 レッスン ⑨	弾き歌い曲 レッスン ⑨			
10	ピアノ曲 レッスン ⑩	弾き歌い曲 レッスン ⑩			
11	ピアノ曲 レッスン ⑪	弾き歌い曲 レッスン ⑪			
12	ピアノ曲 レッスン ⑫	弾き歌い曲 レッスン ⑫			
13	ピアノ曲 レッスン ⑬	弾き歌い曲 レッスン ⑬			
14	ピアノ曲 レッスン ⑭	弾き歌い曲 レッスン ⑭			
15	テスト ピアノ課題曲 (暗譜で演奏する)	弾き歌い曲 (習得した曲の中から2曲を報告し、 直前に指定された曲を演奏する、暗譜しなくてよい)			
<教科書・参考文献> ピアノ曲レッスン用楽譜 新版 幼児保育の歌とリズム 担当の先生と相談のこと 楠 景二編 音楽之友社					

教科目名	音楽 I a		必修	演習	1 単位
担当者	池田 晶子		保育学科第 1 学年		後期
<講師紹介>氏家祐子、櫻町総子、田頭孝子、西川章子、西森典子、増森由貴子、若狹理恵 氏の7名の講師陣により個人レッスンの形で、ピアノ奏法や保育現場で使える弾き歌いについての指導を行う。 <講義概要・授業目標> ・引き続きピアノ奏法について学ぶ。個人のレベルに合わせて更にレベルアップを図る。 ・余裕を持って弾き歌いができるように、更にたくさんの曲を演習、習得する。 <評価基準> 実技試験（担当の先生と相談して決めたピアノ自由曲と予め報告した弾き歌いの2曲のうち、直前に指定された曲） および 平常点（レッスンの様子、練習量、弾き歌い曲の習得数：前後期合わせて8曲以上、曲数に応じて加点）による					
回	講 義 計 画				
1	ピアノ曲 レッスン ① 弾き歌い曲 レッスン ①				
2	ピアノ曲 レッスン ② 弾き歌い曲 レッスン ②				
3	ピアノ曲 レッスン ③ 弾き歌い曲 レッスン ③				
4	ピアノ曲 レッスン ④ 弾き歌い曲 レッスン ④				
5	ピアノ曲 レッスン ⑤ 弾き歌い曲 レッスン ⑤				
6	ピアノ曲 レッスン ⑥ 弾き歌い曲 レッスン ⑥				
7	ピアノ曲 レッスン ⑦ 弾き歌い曲 レッスン ⑦				
8	ピアノ曲 レッスン ⑧ 弾き歌い曲 レッスン ⑧				
9	ピアノ曲 レッスン ⑨ 弾き歌い曲 レッスン ⑨				
10	ピアノ曲 レッスン ⑩ 弾き歌い曲 レッスン ⑩				
11	ピアノ曲 レッスン ⑪ 弾き歌い曲 レッスン ⑪				
12	ピアノ曲 レッスン ⑫ 弾き歌い曲 レッスン ⑫				
13	ピアノ曲 レッスン ⑬ 弾き歌い曲 レッスン ⑬				
14	ピアノ曲 レッスン ⑭ 弾き歌い曲 レッスン ⑭				
15	テスト ピアノ自由曲 弾き歌い曲 （習得した曲の中から2曲を選んで報告し （暗譜で演奏する） 直前に指定された曲を演奏する。暗譜しなくてよい）				
<教科書・参考文献> ピアノ曲レッスン用楽譜 新版 幼児保育の歌とリズム 担当の先生と相談のこと 楠 景二編 音楽之友社					

教科目名	音楽 Ib		必修	演習	1 単位
担当者	表 まり子	保育学科第 1 学年		前期	
<講師紹介> 約 9 年間の海外での演奏経験を活かし、より具体的にオーバーアクションで人間の体からつくり出される音の表現の仕方や、音楽的心情の捉え方を学生と共に考えていきたい。 <講義概要・授業目標> *発声法、呼吸法を知り、身につけ、表現することにつなげることを目標とする。 *基本的なソルフェージュを習得し、確立する。 *歌詞やフレーズを理解し表現する。 *歌うこと、声を出すことに慣れる。 *人前での所作及び表現へのコントロールを目指す。 <評価基準> 各定期テストの前に 2 度小テストを行い、計 3 回の総合及び授業態度を考慮し、各半期の評価とする。					
回	講 義 計 画				
1	腹式呼吸、発声のしくみについて講義と実践 ソルフェージュ、曲演習	コールユーブンゲンより 2, 3 曲 童謡の中から動物の歌、生活の歌。			
2	腹式呼吸。発声練習。 ソルフェージュ、曲演習。	コールユーブンゲンより 2, 3 曲。 コンコーネ 1 曲。動物の歌、生活の歌。			
3	〃	コールユーブンゲンより 2, 3 曲。 コンコーネ 1 曲。動物の歌、生活の歌、遊びの歌。			
4	〃	コールユーブンゲンより 2, 3 曲。 コンコーネ 1 曲。動物の歌、生活の歌、遊びの歌。			
5	腹式呼吸。発声練習。 曲演習。	コンコーネ課題演習。 動物の歌、生活の歌、遊びの歌。			
6	小テスト 1	課題曲：コンコーネ 1 曲 選曲：5 曲中 1 曲を歌う。			
7	腹式呼吸。発声練習。 ソルフェージュ、曲演習。	コールユーブンゲンより 2, 3 曲。 コンコーネ 1 曲。生活の歌、季節の歌。			
8	〃	コールユーブンゲンより 2, 3 曲。 コンコーネ 2 曲。生活の歌、季節の歌			
9	〃	コールユーブンゲンより 2, 3 曲。 コンコーネ 2 曲。生活の歌、季節の歌			
10	〃	コールユーブンゲンより 2, 3 曲。 コンコーネ 2 曲。生活の歌、季節の歌			
11	腹式呼吸。発声練習。曲演習。	コンコーネ課題演習。生活の歌、季節の歌。			
12	小テスト 2	課題曲：コンコーネ 1 曲 選曲：5 曲中 1 曲を歌う。			
13	腹式呼吸。発声練習。曲演習。	選曲したものを暗譜。・・・動作を取り入れて。			
14	腹式呼吸。発声練習。曲演習。	選曲したものを、暗譜。・・・動作を取り入れて。			
15	前期試験	指定された 5 曲中 2 曲を暗譜で歌う。			
<教科書・参考文献> *学生のためのコールユーブンゲンとコンコーネ（教育芸術社） *子どもの歌 名曲アルバム （ドレミ楽譜出版社）					

教科目名	音楽 I b		必修	演習	1単位
担当者	表 まり子	保育学科第 1 学年		後期	
<講師紹介> 約 9 年間の海外での演奏経験を活かし、より具体的にオーバーアクションで人間の体から作り出される音の表現の仕方や、音楽的心情の捉え方を学生と共に考えていきたい。 <講義概要・授業目標> *発声法、呼吸法を知り、身につけ、表現することにつなげることを目標とする。 *基本的なソルフェージュを習得し、確立する。 *歌詞やフレーズを理解し表現する。 *人前での所作及び表現へのコントロールを目指す。					
《評価基準》 各定期テストの前に2度小テストを行い、計3回の総合及び授業態度を考慮し、各半期の評価とする。					
回	講 義 計 画				
1	腹式呼吸、発声練習。 ソルフェージュ、曲演習	コールユーブンゲンより2曲。コンコーネ2曲。 季節の歌。			
2	〃	コールユーブンゲンより2曲。コンコーネ2曲。 季節の歌。			
3	〃	コールユーブンゲンより1曲。コンコーネ3曲。 季節の歌、世界の歌。			
4	〃	コールユーブンゲンより2曲。コンコーネ2曲。 季節の歌、世界の歌。			
5	腹式呼吸。発声練習。 曲演習。	コンコーネ2曲。 季節の歌、世界の歌。			
6	小テスト1	課題曲：コンコーネ1曲（2曲中任意） 選曲：5曲中1曲を歌う。			
7	腹式呼吸。発声練習。 ソルフェージュ、曲演習。	コールユーブンゲンより1曲。コンコーネ4曲（前期分含む） 季節の歌、世界の歌。			
8	〃	コールユーブンゲンより1曲。コンコーネ4曲（前期分含む） 季節の歌、世界の歌。			
9	〃	コールユーブンゲンより1曲。コンコーネ4曲（前期分含む） 季節の歌、世界の歌。			
10	〃	コールユーブンゲンより1曲。コンコーネ4曲（前期分含む） 季節の歌、世界の歌。			
11	腹式呼吸。発声練習。曲演習。	コンコーネ4曲。 季節の歌、世界の歌。			
12	小テスト2	課題曲：コンコーネ1曲（今までの4曲中から1曲を任意で）。 選曲：5曲中1曲を歌う。			
13	曲演習。	選曲された5曲を暗譜練習・・・動作を取り入れて。			
14	曲演習。	選曲された5曲を暗譜練習・・・動作を取り入れて。			
15	後期試験	指定された5曲中2曲を暗譜で歌う。			
<教科書・参考文献> *学生のためのコールユーブンゲンとコンコーネ（教育芸術社） *子どもの歌名曲アルバム（ドレミ楽譜出版社）					

教科目名	水泳実習		必修	演習	0.5 単位
担当者	平下・櫻井・中村	保育学科第 1 学年	前期		
<講師紹介> 平下政美、櫻井貴志、中村司の3名他、クラス担任も参加、保健体育やスポーツ医学等で教職の経験を有す。 <講義概要・授業目標> 水の楽しさを学び、泳法を習得し、事故防止のための安全法を学ぶ。 クロール・平泳ぎで2.5 m完泳を目指す。泳力に応じて個別練習をする。					
<評価基準> 1. 泳力および泳法等を総合的に評価 2. 積極性、参加態度、出席状況等を総合的に評価					
回	実 技 計 画				
1	開講式 班分	クロール・平泳ぎの泳力による班分け 班別練習			
2	班別練習	クロール けのび・バタ足・プル・息つき			
3	班別練習	平泳ぎ キック・プル・息つき			
4	班別練習	クロール 平泳ぎ			
5	班別練習	クロール 平泳ぎ			
6	班別練習 水泳安全法講義	クロール・平泳ぎ 水の危険性と心構え・事故防止方策			
7	試験	試験（2.5m）			
8	クラス対抗ウォーキングリレー				
<教科書・参考文献>					

教科目名	保育と地域社会		選択	演習	1単位
担当者	1年クラス担任	保育学科第1学年	通年		
<講義概要・授業目標> 近年、子どもを取り巻く環境の変化は著しく、いじめや不登校、虐待、DV（ドメスティック・ヴァイオレンス）といった様々な社会問題がある。このような社会の変化に伴い、各自治体や保育機関、福祉機関、教育委員会、各種団体では各種の研修会や講演会、ボランティア活動を積極的に催している。 本教科目では、これらの外部団体の有用な催しに積極的に参加し「現在」を反映した情報や知識を得て、社会問題に対応できる福祉に携わる人材を育成することを目的とする。					
<評価基準> 受講後10日以内にレポート提出をもって受講認定とする 評価は総時間数と認定された受講回数をもって行う。講座・ボランティア共に90分以上のものとする。 単位認定に必要な総時間数：23時間以上 単位認定に必要な受講回数：4回以上 S：10回、A：8回以上、B：6回以上、C：4回以上、D：3回以下（単位不認定）					
講義計画					
各自治体や保健機関、福祉機関、教育委員会、各種団体などが催す講演会、講座、研修会、ボランティア活動などの外部の催しに学生が参加し、情報や知識を得る。					
○ 講義内容について 1、保育関係 2、いじめ 3、虐待 4、DV（ドメスティック・ヴァイオレンス） 5、保健 6、栄養 7、不登校など教育機関 8、その他（必要に応じて認可）					
注意事項 * 受講種別はボランティア、講演会（講座、研修）とする。 * 受講に際しては必ず本人が申請用紙に記入して申請し、担任から押印による許可を得た上で受講すること。 （必要に応じて開催要項などの提示を求める） * 就職の出願の際、本単位を1年時に修得していることが学園長推薦条件の一つとなる。					
<教科書・参考文献> なし					

教科目名	児童文化 I	選択	演習	1 単位
担当者	岡 満 雄	保育学科 第 1 学年	前期	
<講師紹介> 金沢・白山市内 3 小学校の校長を経て、いしかわ師範塾、私立北陸学院小学校で非常勤講師として勤務。当学園では「児童文化 I」及び「国語総合表現」を教える。現石川県児童文化協会副理事長、金沢こども読書研究会理事長、元石川県国語教育研究会会長。				
<講義概要・授業目標> 昨今の社会情勢を見ると、子どもを取り巻く児童文化が、商業主義の標的にさらされていると思われる場面に出会うことがしばしばある。幼児教育に携わる者として、子どもに相応しい児童文化を考えることは大切であり、生活の中で豊かな児童文化を肌で感じるような学習を展開したい。特に【お話の児童文化】と【遊びの児童文化】を中心に、保育士として不可欠な実践的、応用的な指導技術や表現力も同時に身に付ける楽しい演習内容にしたい。				
<評価基準> 毎授業後の提出物・小テスト 4 0 % 演習態度・発表内容 3 0 % 期末テスト 3 0 %				
回	講 義 計 画			
1	「保育と児童文化」		児童文化の領域と現状	
2	「話し言葉の基礎練習①」		発音と発声	
3	「話し言葉の基礎練習②」		朗読と群読	
4	「絵本の読み聞かせの基礎練習」		絵本の読み聞かせの方法と練習	
5	「紙芝居の基礎練習①」		紙芝居の歴史と演じ方	
6	「紙芝居の基礎練習②」		紙芝居の練習と発表	
7	「素話の基礎練習①」		素話の特徴と演じ方	
8	「素話の基礎練習②」		素話の練習と発表	
9	「幼児の成長発達と遊び」		遊びの類別と効果	
10	「集団で遊ぶ」		集団での伝承遊び	
11	「使って遊ぶ」		道具を使った伝承遊び	
12	「作って遊ぶ」		手作り玩具と郷土玩具	
13	「言葉で遊ぶ①」		各種の言葉遊び	
14	「言葉で遊ぶ②」		各種の言葉遊び	
15	「テスト」		素話の実演・ペーパーテスト	
<教科書・参考文献> 毎回プリントを配付、クリアファイル（20P）を各自で用意する。 参考文献はその都度紹介する。				

教科目名	児童文化Ⅱ		選択	演習	1単位
担当者	木村、北村、西川 野間、長部		保育学科第 1 学年	前期	
<講師紹介> 木村昭仁氏（こども園園長）、野間成之氏（紙芝居士）、西川一美氏（児童文学・積み木専門家）、北村満氏（手作り工房運営）、様々な分野で活躍している5名の幼児教育のエキスパートの先生をゲストに迎え、児童文化の楽しさや奥深さを学ぶ。後半のパネルシアター制作は、当学園職員が担当。 <講義概要・授業目標> 児童文化の講義では「子どもの生活＝遊び」と捉え、子どもにとって遊び（生活）について学ぶ。具体的に乳幼児の特性・発達について理解し、実際に自ら遊び、教材（紙芝居、パネルシアター、積み木、自然素材など）に親しみ、実演する中で、楽しく遊ぶための知恵を学ぶとともに子どもの何が育ち、身に着くかを探る。援助や環境構成のあり方についても理解を深める。 <評価基準> 出席日数＋授業態度＋実技テスト					
回	講 義 計 画				
1	積み木、ゲーム、読み聞かせなど①				
2	積み木、ゲーム、読み聞かせなど②				
3	積み木、ゲーム、読み聞かせなど③				
4	自然素材体験				
5	おもちゃ体験				
6	絵本について				
7	紙芝居について				
8	パネルシアター（説明）				
9	パネルシアター（製作）				
10	パネルシアター（製作）				
11	パネルシアター（製作）				
12	パネルシアター（製作）				
13	パネルシアター（製作）				
14	パネルシアター（発表）①				
15	パネルシアター（発表）②				
<教科書・参考文献>					

教科目名	保育実践演習基礎		必修	講義	1 単位
担当者	谷内 通 潟邊 裕江	保育学科第 1 学年		後期	
<講師紹介> 谷内（金沢大学教授）と潟邊（当学園職員）の 2 名で担当。2 年時に完成させる保育実践研究に興味を持って取り組むことができるように、研究の進め方や研究論文の書き方を指導する。困ったことがあれば、積極的に質問して欲しい。 <講義概要・授業目標> 卒業研究の事前演習の位置づけ。研究の進め方や論文の書き方の基礎を学び、2 年時に研究テーマを決めるうえで重要な、『自分の興味関心のある分野』について、論文検索を通して具体化していく。					
<評価基準> ① 出席状況 ② 授業態度 ③ 提出物（期限順守を含む）					
回	講 義 計 画				
1	保育「研究」を始めるために		何のために研究を行うのか、その意義と、研究の進め方の概略について説明する。		
2	研究の進め方		様々な調査方法について学ぶ		
3	研究テーマはどのように決めるのか 研究倫理		自分が興味関心を抱くキーワードから、研究分野を探る。研究立案に際し守るべき事項を知る。		
4	先行研究の探し方 卒業研究発表会について		先行研究を探す意義、検索の仕方、表記方法を理解する。		
5	卒業研究発表会聴講		2 年生の研究発表を聴講し、卒業研究に対するイメージを明確にするとともに、自分の興味を知る一助とする。		
6	卒業研究発表会の振り返り 論文の構成		論文の基本的構成と留意点を理解する。		
7	先行研究（論文）をみつける		自分のテーマに沿った論文を探して読む。		
8	先行研究（論文）レポートの提出		研究テーマに沿った先行研究の内容をまとめ、提出する。		
授業の順番は入れ替わることがある。 <教科書> 白井利明 高橋一郎著 よくわかる卒論の書き方第 2 版 ミネルヴァ書房					

教科目名	文学			講義	2単位
担当者	岩津 航	保育学科	1学年	後期	
<講師紹介> 金沢大学人間社会学域教授。専門はフランス文学・比較文学。主な訳著書に『レトリックの戦場：加藤周一とフランス文学』、ロマン・ガリ『夜明けの約束』、ジョゼフ・チャプスキ『収容所のブルースト』。 <講義概要・授業目標> 幼児教育において、文学は重要な意味を持つ。絵本や児童文学を通じて、幼児は「物語」と「書き言葉」を習得する。物語とは世界の解釈に枠組みを与える力であり、書き言葉は日常言語とは異なる次元での言語活動を促す。本講義は、絵本や児童文学の読み方を知ること、幼児教育に求められる文学的教養を身につけることを目標とする。					
<評価基準> 定期試験 60% 授業参加 20% 確認テスト 20%					
回	講義計画				
1	日本の児童文学史1	金沢発祥の福音館書店について。「子どものとも」			
2	日本の児童文学史2	岩波少年文庫および岩波の子どもの本について。石井桃子の仕事。			
3	絵本の読み方1	『ぐりとぐら』シリーズを読み解く。			
4	絵本の読み方2	動物や機械の擬人化。『11ぴきのねこ』『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』			
5	絵本の読み方3	反復する言葉、反復する物語。『おおきなかぶ』『いないいないばあ』			
6	絵本の読み方4	語りの冒険。『もりのなか』『ハロルドとむらさきのクレヨン』			
7	絵本の読み方5	詩の絵本、言葉のない絵本。『いきる』『アンジュール』『ふしぎなえ』			
8	絵本の読み方6	日常の中の冒険。『おいしいのぼうけん』『はじめてのおつかい』			
9	絵本の読み方7	戦争・政治と子ども。『ひろしまのピカ』『バーバシシのいえさがし』			
10	児童文学の読み方1	成長の物語。『ブー横丁にたった家』『星の王子さま』			
11	児童文学の読み方2	宮沢賢治と説話文学。「猫の事務所」「よだかの星」「グスコブドリの伝記」			
12	文学と子ども1	子どもの視線と大人の言葉。『梨の花』『幼ものがたり』『幼年』			
13	文学と子ども2	子どもの言葉を取り出す。『山びこ学校』『戸室詩集』			
14	総復習	文学史、絵本と児童文学の読み方、文学における子ども。			
15	定期試験	講義内容から出題します。			
<参考文献> 福音館書店編集部編『おじいさんがかぶをうえました：月刊絵本「こどものとも」50年の歩み』、2005年。若菜晃子編著『岩波少年文庫のあゆみ 1950-2020』、岩波書店、2021年。宮崎駿『本へのとびら』、岩波新書、2011年。					

教科目名	国語総合表現		必修	演習	1単位
担当者	岡 満 雄	保育学科 第1学年		前期	
<講師紹介> 金沢・白山市内3小学校の校長を経て、いしかわ師範塾、私立北陸学院小学校で非常勤講師として勤務。当学園では「国語総合表現」及び「児童文化Ⅰ」を教える。現石川県児童文化協会副理事長、金沢こども読書研究会理事長、元石川県国語教育研究会会長。 <講義概要・授業目標> 保育者として恥ずかしくない国語表現力を身に付けるには、そのための技術を磨けばよいと思われるがちであるが、その基礎となる豊かな教養が大切であるということも忘れないでおきたい。具体的な課題解決を通して、実用的な知識や理解を深めるとともに、保育者にふさわしい表現力を養ってたい。					
<評価基準> 毎授業後の提出物・小テスト40% 演習態度・発表内容30% 期末テスト30%					
回	講 義 計 画				
1	「会話表現（基礎）①」		聞き取りやすい話し方、あいさつ		
2	「会話表現（基礎）②」		敬語の使い方		
3	「会話表現（応用）①」		保育者の発声、自己紹介の仕方		
4	「会話表現（応用）②」		実習先との話し方、保育現場での話し方		
5	「会話表現（応用）③」		子どもへの言葉かけ、就職面接		
6	「会話表現（応用）④」		保護者との話し合い、保育現場での電話		
7	「文章表現（基礎）①」		文字を正しく書こう、正しい表記で書こう		
8	「文章表現（基礎）②」		文章作成上の留意点		
9	「文章表現（基礎）③」		文章の基本的な書き方		
10	「文章表現（応用）①」		実習日誌の書き方、指導計画の書き方		
11	「文章表現（応用）②」		実習礼状など手紙・ハガキの書き方		
12	「文章表現（応用）③」		メールの書き方、履歴書の書き方		
13	「文章表現（応用）④」		小論文の書き方		
14	「文章表現（応用）⑤」		連絡帳の書き方、園だよりの書き方		
15	「テスト」		（講義の内容と演習の全範囲から）		
<教科書・参考文献> 『保育者になるための国語表現』田上貞一郎著（萌文書林）					

教科目名	体育講義		必修	講義	1	単位
担当者	中村 司		保育学科第1学年		通年	
<講師紹介> 当学園職員。幼児の身体機能の発達に関することを伝え、子どもの運動あそびにつなげていく。 <講義概要・授業目標> 乳幼児の心身の発育・発達の特徴、子どもを取り巻く現代社会の環境、運動遊びの意義や指導上の留意点、運動遊びの実際等について理解を深める。 毎時プリントを配付し、プリントに記入しながら講義を進める。 各回、講義終了時にプリントを提出する。						
<評価基準> 授業態度 講義プリント 筆記試験 出席状況 などを総合的に評価						
回	講 義 計 画					
1	筋肉・骨格について		筋肉・骨格のはたらき、名称等について			
2	乳幼児の身体の発育と発達		乳幼児の形態、発育曲線、骨格・筋肉の発達などについて			
3	乳幼児の運動機能の発達		運動機能、運動技能、体力、運動能力の発達などについて			
4	乳幼児の心の発達		脳の機能・発達、知的・情緒的・社会的発達と運動の関係について			
5	現代社会と乳幼児		子どもを取り巻く生活時間・空間・人的環境と遊びについて			
6	乳幼児の運動遊び 乳幼児の運動遊びの実際		乳幼児の遊びの重要性、意義とねらいについて			
7	障害児と運動遊び		障害児と運動遊びの重要性・指導について			
8	試験					
<教科書・参考文献> すこやかな子どもの心と体を育む 改訂 運動遊び 井上勝子・高原和子 編著 建帛社						

教科目名	体育		必修	実技	1 単位
担当者	中村 司	保育学科第 1 学年		通年	
<講師紹介> 当学園職員。幼児の身体機能の発達に関することを伝え、子どもの運動あそびにつなげていく。 <講義概要・授業目標> 一般的なスポーツを通して、生涯にわたり安全にスポーツに親しむ態度を養う。 後半は縄跳びを使ったパフォーマンスを練習し発表する。					
<評価基準> 1. 縄跳びの発表を試験とし、技の難易度、完成度、チームへの貢献度等を総合的に評価 2. 毎時の授業態度、出席状況等を総合的に評価					
回	実 技 計 画				
1	オリエンテーション	自己紹介・関係づくりゲーム等			
2～5	ビーチバレー バレーボール	基本練習及びゲーム			
6～8	バスケットボール	基本練習及びゲーム			
9・10	フットサル	基本練習及びゲーム			
11・12	ユニホック	基本練習及びゲーム			
13～15	バドミントン・卓球	基本練習及びゲーム			
16	縄跳びオリエンテーション	縄跳びを使ったパフォーマンスの発表に向けての説明および 班分け			
17～21	縄跳び練習	班ごとに縄跳びの基本練習及び、パフォーマンス発表の練習			
22	縄跳び発表	班ごとに縄跳びを使ったパフォーマンスを発表する			
<教科書・参考文献>					

教科目名	子ども家庭支援論		必修	講義	2単位
担 当 者	大脇 修	保育学科 2	学年	前期	
<講師紹介> 当学園の園長。社会福祉士。知的障害児者福祉施設支援員、石川県中央児童相談所児童福祉司、児童自立支援施設自立支援専門員及び施設長などの業務を経て現在に至る。 <講義概要・授業目標> ・子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、それを実践するための方法、技術等について学ぶ。 ・児童虐待防止を中心に保育と保育を取り巻く関係機関の連携を視野に入れた支援を理解する。 <評価基準> 受講の態度・出席状況 提出物 試験					
回	講 義 計 画				
1	子ども家庭支援の意義と必要性				
2	子ども家庭支援の目的と機能				
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進				
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義				
6	子どもの育ちの喜びの共有				
7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援				
8	保育士に求められる基本的態度				
9	家庭状況に応じた支援				
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力				
11	子ども家庭支援の内容と対象				
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
13	地域の子育て家庭への支援				
14	要保護児童およびその家庭に対する支援				
15	子育て支援に関する課題と展望				
<教科書・参考文献> 新 基本保育シリーズ 第5巻 第2版 子ども家庭支援論 中央法規出版					

教科目名	子どもの理解と援助			演習 1 単位
担 当 者	友杉 エリ	保育学科	2 学年	前期
<講師紹介>大学・大学院での専攻以来、本校での講義、「お母さん塾」等での講演、教育相談、自分自身の子育て等の経験を通して、人格形成の土台となる乳幼児期の子どもの育ちに向き合ってきました。2018 年よりは「安心感の輪」子育て支援プログラムのファシリテーター、2019 年よりは公認心理師としての新たな視点も加え、多くの課題をかかえ益々混迷し先行きの見えない現代社会で、子どもたちが将来自らの力でよりよい世界を創造し人生を幸せに逞しく生き抜いていける力を育めるように、保育者として、子どもたちの環境とのより豊かなかかわりの経験をどのように生み出し支えてゆけばよいのかについて日々探究し続けています。 <講義概要・授業目標>乳幼児期の子どもが、主体的に環境（人、物、こと）にかかわって様々な学びを得ていくプロセスは、保育者の、子どもの心に寄り添ったかかわりや環境構成といった援助に支えられることで、はじめて豊かに実を結んでいく。本授業では、子どもの個と社会性の育ちを適切に援助するために、保育者として、どのように、子どもを理解し寄り添い、子どもの主体的な学びを引き出し方向づけていけば良いのかについてその視点や方法について学ぶ。 <評価基準> テスト、授業への積極性、提出物、出席状況からの総合的評価				
回	講 義 計 画			
1	はじめに	子ども理解と適切な援助の前提となる、子どもの見方、寄り添い方		
2	幼児期の教育	小学校以上の教育を貫く柱、3つの資質能力・10の姿		
3	保育実践の基本	養護と教育 「遊びを通しての総合的指導」とは		
4		園生活における生活や遊びを通して育まれる力—社会情動的スキル		
5		アタッチメント、安心感の輪		
6		感情の包容、感情の社会化、感情のコントロール		
7	基本的生活習慣への援助	基本的生活習慣の獲得と子どもの主体性		
8	保育者の成長	幼児理解、援助方略の経年変化		
9	保幼小の接続	学びの連続性		
10	保育の記録と評価	ドキュメンテーションなどによる可視化、保育プロセスの質の評価		
11	協同的な活動の援助	保育の省察と保育計画、エマージェントカリキュラム、AAR サイクル		
12		プロジェクト活動の先導—環境構成・サークルタイムの活用—		
13		協同的活動を通して育まれる力—目標の達成、他者との協働—		
14	授業のまとめ	環境構成の事例検討を通して授業での学びを振り返る		
15	テスト			
<教科書・参考文献> 教科書「子どもの理解と援助」無藤隆・堀越紀香・丹羽さかの・古賀松香編著 光生館				

教科目名	人間関係			演習	1	単位
担当者	友杉 エリ		保育学科	2 学年		後期
<講師紹介> 「子どもの理解と援助」参照 <講義概要・授業目標> 乳幼児期における自己の力と社会性の力の育ちは、非認知能力として生涯を予測する重要なものであることが多くの研究で明らかにされている。そのプロセスは、子どもの環境、とりわけ大人や仲間との主体的で豊かな感情を伴う多様なかかわりの中で次第に培われていく。そのような過程を、子どもにとって重要な他者である保育者はどのようなあり方で支え導いていけばよいのか、子どもが園で初めて出会う仲間と次第に信頼し合う仲間関係を構築し協同的に学びを深め合う集団を形成しその集団の一員としての行動を身につけつつ個としても充実して生きる力を育んでいくためにはどのような援助が必要なのか。領域「人間関係」のねらいと内容に沿いつつ、さまざまな事例を通して学んでいく。 <評価基準> テスト、授業への積極性、提出物、出席状況などの総合的評価						
回	講義計画					
1	はじめに	「人間関係」のねらい・内容 人とのかかわる力とは				
2	アタッチメントの形成	保育者との出会い 安心感の輪 自信と他者への信頼感				
3		アタッチメントのタイプ、情緒的利用可能性				
4		安定したアタッチメントを基盤とした子どもとのかかわり				
5	遊びの中の人とのかかわり	遊びの発達 パーテンの仲間遊びの分類				
6		発達に応じた子どもの遊びの援助				
7	いざこざの援助	いざこざの援助の基本				
8		葛藤を越えて折り合う経験で身につける人とともに生きる力				
9		自己主張、自己抑制、他者理解による自己調整				
10	道徳性・規範意識の芽生え	ルール性、道徳性、規範意識への援助				
11		さまざまな事例検討				
12	自立性	依存と自立 他者に支えられながら自己の「目標を達成する力」				
13	個と集団	信頼し合う仲間関係の構築 集団の一員として個を充実して生きる力				
14	協同性	目標を共有しよさを生かし合うさまざまな「他者との協働」				
15	テスト					
<教科書・参考文献> 教科書 「領域 人間関係」無藤隆監修 岩立京子編 萌文書林 参考文献は随時紹介						

教科目名	言 葉		必修	演習	1単位
担当者	泉 由美子	保育学科第 2 学年	後期		
<講師紹介> ・当学園職員。公立幼稚園・保育園で 40 年間勤務。現場での豊富なエピソードを基にこどもの言葉の発達の意味を学生に伝える。 <講義概要・授業目標> ・乳幼児のコミュニケーション・言葉などの発達について学ぶ ・保育所保育指針・こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領の領域「言葉」を理解する ・乳幼児の言動を理解し、保育者の言葉かけについて考える ・指導案（保育者の援助・言動・環境構成など）作成・記録の書き方について学ぶ <評価基準> ・授業態度・提出物（レポート、指導案、作品）・発表態度・ノートの整理 など					
回	講 義 計 画				
1	保育内容「言葉」の意義	乳幼児期の発達と保育について学ぶ 人間と言葉 ・幼児と言葉 言葉の役割を知る			
2	乳幼児の言葉の発達	乳幼児のコミュニケーション・言葉の発達の筋道について学ぶ 乳幼児の言葉の発達に対する援助について学ぶ			
3	乳幼児の言葉と環境	養育環境の重要性に気づく ・事例から幼児理解を深める 話し言葉・書き言葉と環境について理解する			
4	保育所保育指針・こども園保育教育要領の「言葉」について	保育所保育指針・こども園教育要領「言葉」のねらい・内容を学ぶ 「言葉の感覚を養う」ことについて考える			
5	遊びの中で育つ言葉の実践について学ぼう 保育者の言葉	グループでの話し合いを通して保育者が「かわること」の意味を考える ・保育者の言葉・指導と支援について学ぶ			
6	児童文化財と領域「言葉」で広がる世界 言葉遊び	ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇、劇遊びなどについて学ぶ ・いろいろな言葉遊びを知る			
7	指導案作成 教材づくり	言葉遊びの保育を想定して、日案（指導計画）を作成する 教材・遊具などを工夫して作る			
8	指導案作成	保育者の関わり方、言葉のかけ方、幼児へのねがい（育ちへの目標）などについて留意して指導案を作成する			
9	模擬保育（指導案を基に、発表）①	模擬保育を体験し、指導案を見直す 友だちの指導案・模擬保育の良さに気づく			
10	模擬保育②	〃			
11	絵本の良さ・絵本の読み聞かせ	絵本の良さを知る 推奨する絵本を選び実際に読み聞かせをする 絵本の読み聞かせの配慮・注意点を学ぶ			
12	教材を作る（パペット他）	身近にある軍手などを利用してパペットを作る			
13	自分の作った作品の発表をする（パペット）	実践で役立つように工夫して創作した物を発表する			
14	小学校との連携・接続の実践について	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿など 「話す」「聞く」「読む」「書く」などの言語活動を意識し言葉への興味を広げる ・小学校教育へのつながりを理解する			
15	言葉の授業の振り返りをする	自分の考えや思いを省察し、レポートにまとめ提出する			
<教科書> 実践例から学びを深める 保育内容・領域「言葉指導法」 久富陽子 編著 わかば社					

教科目名	身体表現基礎		必修	演習	1	単位
担当者	中村 司	保育学科第2学年	前期			
<講師紹介> 当学園職員。高校教諭としての経験を生かし、身体を使って表現する楽しさを伝えていきたい。 <講義概要・授業目標> 子どもたちに提供する運動あそびの実際と留意点について学ぶ。 毎時、保育者役の学生が幼児向けの体操、ダンスを紹介し指導する。						
<評価基準> 1. 器械運動における意欲・協力・技能を評価 2. 保育者役の評価 3. 毎時の授業態度、出席状況等を総合的に評価						
回	演 習 計 画					
1	オリエンテーション	演習の目的について、体力づくり				
2～4	ダンス	幼児のダンス				
5～10	器械運動	各種目に課題を持ち、練習する マット（前転、後転、側転、壁倒立、倒立前転等） 鉄棒（前まわり、後ろまわり、逆上がり、足掛け上がり等） 跳び箱（4～8段開脚、台上前転等）				
11～12	器械運動評価	マット・鉄棒・跳び箱				
13～14	器械運動の指導法	幼児向けの指導法や留意点について学ぶ				
15	まとめ	振り返り				
<教科書・参考文献>						

教科目名	乳児保育Ⅱ		必修	演習	2	単位
担当者	松本 昌子	保育学科 2 学年		前期・後期		
<講師紹介> 当学園職員。看護師・助産師。県庁、主に県立中央病院で勤務。小児病棟・NICU/GCU・産科病棟で小児医療と関わっていた勤務経験をもとに講義する。 <講義概要・授業目標> 乳児保育Ⅰで学んだ内容を踏まえ、養護及び教育の一体性、0・1・2歳児の発育・発達過程や特性を確認し、保育における保育者の援助や関りの基本について理解する。また、0歳児、1歳児以上3歳未満児の基本的生活習慣（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔）と安全、遊びについての保育の方法、環境の構成や配慮の実践について具体的に学ぶ。さらに子どもの気持ちを理解しようとする姿勢、一人ひとりの子どもに寄り添う保育や計画の作成など体験する。 <評価基準> 演習及びレポート課題により判定する						
回	講義計画					
1	乳児保育の基本及び見学観察					
2	乳児保育の意義（養護と教育が一体とな行われる乳児保育）					
3	0, 1, 2歳児の発育・発達					
4	食事の援助と環境（調乳や授乳、離乳食などの保育者の具体的な援助の理解）					
5	排泄の援助と環境（おむつ交換等、排泄への保育者の具体的な援助の理解）					
6	睡眠・休息の援助と環境（睡眠や休息時の保育者の援助や保育環境の理解）					
7	着脱に関する援助と環境（子どもの衣服など着脱への保育者の援助の理解）					
8	清潔に関する援助と環境（沐浴や清拭などの保育者の援助や保育環境の理解）					
9	乳児保育における健康と安全、事故（SIDS）蘇生実技					
10	乳児（0歳児）の保育内容と遊びの保育内容、保育者の援助					
11	1歳以上3歳未満児の保育内容					
12	1歳以上3歳未満児の遊びとおもちゃや遊具					
13	乳児保育における計画（長期計画・短期計画）					
14	乳児保育における評価					
15	乳児保育を支える連携					
<教科書・参考文献> 「保育所保育指針解説」（フルーベル館） 「演習で学ぶ乳児保育」（わかば社）						

教科目名	乳 児 保 育 II (龍雲寺学園パウディア学舎)		必修 演習 2 単位
担 当 者	吉岡 紀子	保育学科 2 学年	前期
<講師紹介> 龍雲寺学園 (平成 25 年より保育園から幼保連携型認定こども園に移行) に 20 年勤務。主幹保育教諭。 <講義概要・授業目標> ・学園で学んだ知識・保育技能・理論等を実習を通して実感し、保育士に必要な資質・能力・技術等を習得していく。			
<評価基準> ・実習生個々が優しく豊かな人間性、主体的・積極的な目的意識を持ち、試行錯誤しながらも向上しようとする姿勢や細かな観察力、また、実践記録等での的確な能力を見る。			
回	講 義 計 画		
1	オリエンテーション実習	当園の概要や施設、保育内容を知り、実践に入る準備をする。	
2	各部屋に入り実習	0歳児から2歳児クラスに1～2名ずつ入り、2～3日間実習を行う。	
3	〃	〃	
4	〃	〃	
5	〃	〃	
6	〃	〃	
7	〃	〃	
8	〃	〃	
<教科書・参考文献> ・0歳児～2歳児の各クラスに入り、2～3日間ずつ計8日間の実習をします。 1日ごとに実習記録を書き、翌日担当の保育教諭に提出、その後実習記録や日中の出来事を元に担当保育教諭とふり返りをおこなっていきます。 ・途中学園長との実習のふり返り、講義があります。			

教科目名	乳 児 保 育 II (梅 光 保 育 園)		必修 演習 2 単位
担 当 者	斉 梧 史 江	保育学科 2 学年	前期
<講師紹介>金沢市の保育園に 30 年以上勤務。平成 26 年より、当学園の学生に対し乳児保育の実践方法についての指導を行っている。 <演習概要・演習目標> 1. 0、1、2 歳児クラスの現場に入り、子どもの保育に関わる。 2. 保育に関する中で、子どもの発達理解・保育援助・配慮事項について学ぶ。			
<評価基準>			
回	演 習 計 画		
1	観察及び参加演習	8 日間の中で、0・1・2 歳児クラスを回り、その中で以下の点について観察と参加演習を行う。 (観 察) 乳幼児の認識・知的、言語、運動機能の発達・情緒の安定・保育士の愛情受容・乳幼児の事故予防と防止のための注意・同年齢児の関心の発達 (1、2 歳児) 等 (演 習) 健康観察、検温・食事・睡眠の環境及び睡眠状態の観察について・環境整備・遊び・授乳・離乳食の与え方 (0 歳児) 沐浴、清拭、おむつ交換、便の観察 (0 歳児) おむつ交換、排泄の自立習慣 (1、2 歳児) 衣服着脱援助 (1、2 歳児)	
2	〃		
3	〃		
4	〃		
5	〃		
6	〃		
7	〃		
8	〃		
		8 日間の中で早番・遅番を各 1 回経験する。 最終日のクラスで絵本の読み聞かせを経験する。	
<教科書・参考文献>			

教科目名	乳 児 保 育Ⅱ（双葉こども園）		必修	演習	2単位
担 当 者	濱 中 悦 子	保育学科 2 学年		前期	
<講師紹介> 保育の仕事を始め、20年以上になります。“一人ひとりの子どもが大切にそだてられるため”の保育をめざし、日々奮闘中です。保育の中でも乳児保育は重要で、大変でもあります、それ以上に、子どもの持っている力のすごさ、保育の面白さを伝えていければと思っています。 <演習概要・演習目標> 1. 保育の1日の流れを把握し、保育に参加する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して、乳児期の子どもを理解する。 3. 授業で習った内容を踏まえ、子どもの発達、保育内容や保育環境を理解する。 （当園の育児担当制の保育と流れる日課も含めて） <評価基準> ・子どもとのかかわりや関係性 ・実習態度 ・レポートの内容(保育についての理解、実習を行ったうえでの学び)					
回	演 習 計 画				
1	保育園の役割を知る 0歳児の観察と保育参加	・当施設について理解する。 ・保育の1日の流れ、内容を理解する。 ・0歳児の発達や心理を理解する。 （知的、言語、運動、あそび、情緒面など）			
2	0歳児の観察と保育参加	・0歳児の保育に参加し、保育技術等を学ぶ。 （食事、睡眠、排泄などの生活、遊びと環境づくり）			
3	1歳児の観察と保育参加	・1歳児の発達や心理を理解する。 （知的、言語、運動、あそび、情緒面、他者への関心など）			
4	〃	・1歳児の保育に参加し、保育技術等を学ぶ。 （0歳児クラスと同様）			
5	〃	・実践的なかかわりを通して、乳児保育への理解を深める。			
6	2歳児の観察と保育参加	・2歳児の発達や心理を理解する。 （1歳児クラスと同様）			
7	〃	・2歳児の保育に参加し、保育技術等を学ぶ。 （0・1歳児クラスと同様）			
8	〃	・実践的なかかわりを通して、乳児保育への理解を深める。			
<教科書・参考文献>					

教科目名	乳児保育Ⅱ（エンジェル保育園）		演習	2 単位
担 当 者	大浜 佳美	保育学科	2 学年	前期
<講師紹介> 野々市市のこども園で 15 年間以上勤務。平成 28 年より、当学園の学生に対し乳児保育の実践方法について指導を行っている。 <講義概要・授業目標> 乳児保育の望ましい方向を探り、具体的な実践法を学習する。 ・乳児の育ちと生活実態を理解する。 ・乳児と保育者の望ましい関わりを学ぶ。 <評価基準>乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方への理解。養護及び教育の一体性を踏まえ、乳児の生活や遊びと保育方法、環境、配慮の実際、保育計画について主体的に考える。 子どもの人権を尊重して、子どもの意思や主体性を大切にしたい関わり。 乳児理解を深めるための演習記録。				
回	講 義 計 画			
1	乳児の発達と保育	発育・発達の特徴とは 保育環境のあり方 人との関り、健康・安全への配慮		
2	乳児の生活、遊び	授乳、離乳食、睡眠、オムツ交換、検温、沐浴		
3	乳児の生活、遊び	手遊び、ふれあい遊び、遊びと環境づくり 授乳、離乳食、睡眠、オムツ交換、検温、沐浴		
4	1 歳児の発達と保育	発育・発達の特徴と保育環境のあり方 人との関り、健康・安全への配慮		
5	1 歳児の生活	食事、睡眠、オムツ交換、排泄、脱着		
6	1 歳児の生活、遊び	遊びと環境づくり 保育教諭の役割 授乳、離乳食、睡眠、オムツ交換、検温、沐浴		
7	2 歳児の発達と保育	発育・発達の特徴と保育環境のあり方 人との関り、健康・安全への配慮		
8	2 歳児の生活、遊び	食事、睡眠、排泄、脱着 発達と遊び、保育教諭の役割		
<教科書・参考文献>				

教科目名	乳児保育Ⅱ		必修	演習	2単位
担当者	米倉 道子	保育学科	2学年	前期	
<講師紹介> 金沢市内にあるこども園に勤務している。乳児保育で大切にしたいことや乳児保育の実践方法を伝えていきたい。 <講義概要・授業目標> ・0、1、2歳児クラスの保育に参加し、子どもとかわる ・子どもとのかかわりを通して、一人ひとりの発育・発達の特徴など乳児期の子どもを理解する ・保育者の援助や配慮事項などを体験的に学ぶ <評価基準> 実習態度、記録、援助技術の習得など、総合的に実習評価を行う。					
回	講義計画				
1	観察・参加実習	各年齢の部屋に入り、ねらいを具体的に設定して、下記の点について観察と参加実習を行う。 ・保育の一日の流れ、内容を理解する ・乳児期の発育、発達や心理を理解する (知的、言語、運動、あそび、情緒面など) ・保育に参加し、保育技術を学ぶ (健康観察、検温、食事、食物アレルギーへの配慮、睡眠の環境、睡眠状態の観察、おむつ交換、衣服の着脱、環境整備、あそびなど) 上記に加え、0歳児は、授乳、離乳食、沐浴について、1、2歳児は、排泄についても学ぶ。			
2	〃				
3	〃				
4	〃				
5	〃				
6	〃				
7	〃				
8	〃				
<教科書・参考文献>					

教科目名	乳児保育（泉こども園）		必修 演習 2 単位
担 当 者	泉こども園 3 歳未満児担当 保育教諭及び園長	保育学科 2 学年	前期
<講師紹介> 当学園附属こども園職員が担当。学生に対し、乳児保育の演習指導を行っている。 <演習概要・演習目標> 乳児保育に必要な発達と特性を理解し、保育教諭の援助の仕方を体験的に学ぶ。			
<評価基準> 演習態度、記録、援助技術の習得 等			
回	演 習 計 画		
1	オリエンテーション 0 歳児の発達と特徴の理解 1 日の生活について	園の沿革、理念、方針、クラス編成及び乳児期の保育の重要性について 0 歳児の生活の流れを知り、発達と特徴について理解する	
2	0 歳児の生活・遊びと環境	健康・安全への配慮、生活や遊びを通して保育者との心の交流や 関わり方、家庭との連携を学ぶ。	
3	1 歳児の発達と特徴の理解 1 日の生活について	1 歳児の生活の流れについて知り、発達と特徴について理解する	
4	1 歳児の生活・遊びと環境	保育者との関わり、健康・安全への配慮を体験し、学ぶ 基本的生活習慣の習得についての援助の方法を体験し、学ぶ 家庭との連携について学ぶ	
5	2 歳児の発達と特徴の理解 1 日の生活について	2 歳児の生活の流れについて知り、発達と特徴について理解する	
6	2 歳児の生活と環境	保育者との関わりや基本的生活習慣の自立に向けての援助の方法を体験し、学ぶ	
7			
8	2 歳児保育の遊びの演習 乳児保育演習のまとめ	一体的な教育・保育について 遊びの演習 乳児保育演習についての振り返り・まとめ	
<教科書・参考文献>			

教科目名	障害児保育		演習	1単位								
担当者	徳田 茂	保育学科第2学年	前期									
<講義概要> ・障害の有無に関わりなく全ての人が共生するインクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に育つインクルーシブ保育が極めて重要です。 ・保育現場へ出ていくと、さまざまな障害のある子と出会うことが想定されます。その際に障害のある子をよく理解し、暖かく受け止め、その育ちの援助をしていけるように、実際的な例を交えながら、講義を進めていきます。 ・各自に、テーマについての調べと発表をしてもらいます。 ・グループ討論で、テーマについての意見等を出し合うことを通じて、より理解が深まるようにします。 <授業目標> ① ICF や改正障害者基本法などをベースに、障害概念や障害モデルを理解する。 ② さまざまな障害について理解すると共に、障害のある子ども一人ひとりを理解することの大切さを学ぶ。また、障害のある子どもとのよりよい関わりのためのコミュニケーションについて理解を深める。 ③ 障害のある子どもの育ちの援助の実際について、具体例を通して理解を深める。 ④ 障害のある子どもの家族の心理や、家族への援助の実際について理解を深める。 ⑤ 障害のある子とない子が共に育ち合う、インクルーシブ保育について理解を深める。 <評価基準> <table><tr><td>① テーマについての調べと発表（20点）</td><td>②試験（80点）</td></tr><tr><td>・ ていねいに調べてまとめているか。</td><td>・ それぞれの設問についてよく理解し、自分の意見を交えながら、わかりやすく記しているか。</td></tr><tr><td>・ 定められたルールに基づいて書かれているか。</td><td></td></tr><tr><td>・ わかりやすい発表ができたか。</td><td></td></tr></table>					① テーマについての調べと発表（20点）	②試験（80点）	・ ていねいに調べてまとめているか。	・ それぞれの設問についてよく理解し、自分の意見を交えながら、わかりやすく記しているか。	・ 定められたルールに基づいて書かれているか。		・ わかりやすい発表ができたか。	
① テーマについての調べと発表（20点）	②試験（80点）											
・ ていねいに調べてまとめているか。	・ それぞれの設問についてよく理解し、自分の意見を交えながら、わかりやすく記しているか。											
・ 定められたルールに基づいて書かれているか。												
・ わかりやすい発表ができたか。												
回	講 義 計 画											
1	オリエンテーション 障害とは何か(1) 障害のある子との関わりについて振り返る											
2	障害とは何か(2) 障害概念や障害モデルの理解											
3	障害とは何か(3) さまざまな障害（狭義の障害）											
4	「その子自身」を理解することの大切さ											
5	コミュニケーションは保育のベース(1) さまざまなコミュニケーション											
6	コミュニケーションは保育のベース(2) 障害児とコミュニケーション											
7	見通しをもって実践する											
8	障害児保育と遊び(1)											
9	障害児保育と遊び(2)											
10	生活習慣獲得の援助											
11	親の思いを聴き、共に生きる(1) 障害児の親の心理											
12	親の思いを聴き、共に生きる(2) 障害児の親への援助											
13	インクルーシブ保育を目指して(1)											
14	インクルーシブ保育を目指して(2)											
15	試験											
<副読本> ・ ひまわり教室保護者会文集『みちのり』（200 円） 1 回目の授業の際に配布します。その時に 200 円を集めます。 <参考文献> ・ 小山望他『だれもが大切にされるインクルーシブ保育』（建帛社） ・ 徳田茂他『みんないっしょに生きようよ』（柘植書房新社）												

教科目名	障害児保育		必修 演習 1単位
担当者	小坂 正栄	保育学科 2年	後期
〈講師紹介〉 金沢市通園施設・幼保育園に勤務しながら統合保育を学び金沢大学科目等履修で障害に関する種々の単位取得。県・市町村等の委託で障害児・者の相談業務を30年程行っています。 〈講義概要・授業目的〉 幼保育園・施設等における特別支援のサポートを要する子ども・御家族に対してどのように配慮し、より良く集団生活を送れるかを貰うか導き出し、問題の解決を実践できる保育士となる事を目的とする。行動分析・課題分析・手順書・家族とのコミュニケーション等の実習を行う。現場に役立つ授業を目指しています。 〈講義内容・講義計画〉			
1	障がい児・気になる子とは？ これまでの知識・経験の確認	9	集団の中での発達障害児 家族の葛藤と心境の理解・保育士の役割を考える。
2	気になる子との出会い まず、気付くこと。アセスメント	10	手順書・スケジュール 支援の方法の実践。視覚教材の作成。
3	自閉スペクトラム児との出会い 学習スタイルの違いについて・事例	11	集団の中での発達障害児 他機関との連携・医療機関・相談機関
4	ADHD 児の理解と支援・疑似体験 集団の中でのアセスメント	12	応用行動分析 スモールステップの組み方
5	学習障害予備軍・疑似体験 まず、気付くこと。アセスメント	13	課題分析 活動チャートの活用
6	ダウン症児・保育の留意点 集団での育ちを支援するとは	14	問題行動の解決のプロセス ABA の活用
7	障がい児・気になる子とは？ これまでの知識・経験の確認	15	前期まとめ・試験
8	発達障害とその周辺の子ども達 発達障害者支援法の改正について		順番変更あり
〈教科書・参考文献〉 新版ポーター早期教育プログラム〜0歳からの発達チェックと指導ガイド〜山口薫氏訳 新版 チェックリスト 合同出版『ポーター・マニュアル』 テンプルグランディン氏プレゼンテーション動画 ADHD 児アニメーション動画・保護者からのメッセージ動画 KIDS 発達検査表・すこやか手帳・5歳児検診DVD等			

教科目名	子育て支援		必修	演習 1 単位
担当者	黒山美千代	潟邊裕江	保育学科 2 学年	後期
<講師紹介> 黒山：当学園職員。県職員（福祉職）として児童相談所、障害児（者）施設、保健福祉センター等で勤務。 潟邊：当学園職員。県職員（心理職）として児童相談所、精神科病院、精神保健福祉センター等で勤務。 <講義概要・授業目標> 1. 保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士が行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 <評価基準> ①出席状況 ②授業態度 ③提出物 ④定期試験				
回	講 義 計 画			
1	保育と子育て支援	保育士として子育て支援を実践するために 子育て支援とソーシャルワーク 保育士として子育て支援にかかわるために		
2	子どもの権利と子育て支援	子どもの権利を守る取り組み（権利擁護） 子どもの最善の利益を考慮した保育		
3	保育の専門性と子育て支援	保育者に求められる専門性 子育て支援の構造		
4	子育て支援の展開過程	保育現場における子育て支援の内容 子育て支援の展開過程・概要と保育者としての留意点 子育て支援における関係機関との連携		
5	子育て支援における計画・記録・評価	計画の必要性和計画策定の方法 支援記録の必要性和記録の方法 評価の必要性和評価方法		
6	保護者との信頼関係の構築	保育者と保護者の間における信頼関係とは 信頼関係を築く受容と共感的理解		
7	保護者の理解とかわり方	保護者の思いに気づく、保護者を理解する 保護者をエンパワーメントする		
8	地域資源の活用と関係機関との連携・協力	子育てを支援する地域資源の理解と活用 関係機関との連携・協力		
9	保育所の特性を生かした保護者への支援	日常の保育と一体となった子育て支援の展開 文書を活用した子育て支援 保育所の特性を生かした地域子育て支援 相談・助言における保育士の専門性の範囲と限界		
10	特別な支援を必要とする保護者への支援	児童虐待が疑われる家庭への子育て支援 ひとり親家庭への子育て支援 障害のある子どもを育てる保護者への子育て支援		
11	問題・課題のある保護者への支援	養育上に不適切なかわりがある保護者への支援		
12		苦情を繰り返す・不当な要求を行う保護者への支援 保護者間トラブルを抱える保護者への支援		
13	保育所における子育て支援	育児不安になった保護者への支援 仕事と育児の両立で悩む保護者への支援 育児不安がある父子家庭への支援		
14	児童発達支援センターにおける子育て支援	知的障害のある子どもの母親への支援		
15	試 験			
<教科書>小原敏郎・橋本好市・三浦主博（編）『演習・保育と子育て支援』（株）みらい				

教科目名	保育実践演習			必修	演習	1単位
担当者	谷内 通・潟邊 裕江		保育学科第 2 学年		前期	
<講師紹介> 谷内（金沢大学教授）と潟邊（当学園職員）の2名で担当。 1年の「保育実践研究基礎」で調べた『自分の興味関心のある分野』をもとに、研究テーマを決め、計画を具体化し調査研究に着手する。 <講義概要・授業目標> 保育場面で見られる問題の理解や解決に役立つテーマで、調査研究を行い、論文にまとめ、全員の前で発表する流れを通して、将来現場で行う「保育実践研究」に役立つ知識や技術を身に付けることを目指す。						
<評価基準> ① 出席状況 ②授業態度 ③発表内容 ④提出物（期限順守を含む）						
回	講 義 計 画					
1	オリエンテーション 研究計画案の立て方		1年間の研究計画の流れの確認 テーマにあった調査方法の選び方			
2	研究計画案の作成		研究テーマから、研究計画の素案を作成する			
3	研究テーマ発表会の準備		テーマ発表会に向けての準備を行う			
4	研究テーマ発表会リハーサル		発表者の中から何組かを選び、発表の手順を学ぶ			
5	研究テーマ発表会		職員の前で研究テーマと研究計画を発表する			
6						
7	研究計画作成		順番に講師と個別面談を行い、研究素案を修正していく			
8						
9						
10						
11						
12						
13	研究計画修正・予備調査の実施		個別面接での助言を踏まえて研究計画を修正。 場合によっては計画立案のための予備調査を行う。			
14						
15	研究計画の完成		様式に従って研究計画書を Word で作成し提出			
各自、データ保存用の USB メモリを用意すること。						
<教科書> 白井利明 高橋一郎著 よくわかる卒論の書き方第2版 ミネルヴァ書房						

教科目名	保育実践演習			必修	演習	1 単位
担当者	各指導教官		保育学科第 2 学年		後期	
<講師紹介> 授業担当は谷内（金沢大学教授）と潟邊（当学園職員）の 2 名で引き続き行うが、後期から研究ごとに指導教官が付く。調査研究は各指導教官と相談しながら進める形になる。調査研究の結果をまとめて論文に仕上げ、抄録、研究発表会用のパワーポイント資料を作成し、発表会に臨む。 <講義概要・授業目標> 各研究メンバーは、指導担当者および講義担当者と相談をしながら作業を進める。結果の集計に仕方についての講義も取り入れ、研究結果を論文や抄録、パワーポイント資料にまとめる作業を通して、相手に分かりやすい文書表現や発表の仕方を学ぶ機会とする。 <評価基準> ① 出席状況 ②授業態度（指導教官への連絡・報告を含む） ③提出物（期限順守を含む） ④論文・抄録・パワーポイント資料、発表の内容						
回	講 義 計 画					
1	研究計画を指導担当者に説明する		前期で作成した研究計画を指導担当者に説明し、実施に関する助言を受ける。			
2	実験・調査・相談		実施および修正に関する相談			
3			調査・実験の実施			
4	分析に必要な統計手法について		結果を統計的に処理する方法を学ぶ。			
5	結果分析		結果の集計及び分析、指導担当者への相談			
6						
7	結果分析及び考察		分析する根拠となる資料を探し、仮説と比較しながら考察としてまとめる			
8	結果分析および論文作成		考察したことを文章にまとめる			
9	論文作成		様式に従って論文の作成、修正を行う			
10	論文提出		卒業論文を印刷し、指導担当者に提出			
11	抄録作成		卒業論文を A4・1～2 枚にまとめる			
12	抄録提出		抄録を Word で作成しメールで提出			
13	パワーポイント、発表原稿作成		研究発表会用の、パワーポイント、発表原稿作成			
14	パワーポイント提出		パワーポイントのデータを USB に保存し提出			
15	発表会リハーサル		発表原稿およびパワーポイント操作の最終確認			
各自、データ保存用の USB メモリを用意すること。						
<教科書> 白井利明 高橋一郎著 よくわかる卒論の書き方第 2 版 ミネルヴァ書房						

教科目名	臨床心理学		必修 演習 1単位
担当者	吉本 真悟	保育学科 2 学年	前期
<講師紹介> 石川県こころの健康センター、精神科病院、スクールカウンセラー、石川県発達障害支援センター等を経て、現在は発達障害者支援センターパスにて勤務。専門は発達障害とひきこもり支援。公認心理師。 <講義概要・授業目標> 臨床心理学の領域は幅広く、多くの心理療法が生まれている。本講義では、その中でも特に重要な理論・心理療法を取り上げ学んでいく。臨床心理学を学ぶことで自己理解・他者理解を深め、仕事に活かすだけでなく、人生をより深く豊かにするための一助となれば幸いである。			
<評価基準> 出席状況を重視し、授業への参加姿勢、試験の結果などを加味し、成績評価を行う。			
回	講 義 計 画		
1	臨床心理学とは何か	心理学の歴史と臨床森林学の全体構造	
2	ライフサイクルと発達理論	生涯発達の視点から	
3	愛着理論	S. Freud の無意識の発見	
4	自我理論と防衛機制	J. Bowlby の愛着理論と H. Harlow による代理母実験	
5	記憶	記憶の分類とその仕組み	
6	学習理論	人が行動を身につける仕組み	
7	ストレスとコーピング	ストレス反応の仕組みとストレスマネジメント	
8	パーソナリティ	類型論から特性論、ビッグファイブ理論へ	
9	対人関係	交流分析理論とアサーション	
10	幼児教育の意義	非認知能力および脳神経系の発達について	
11	メンタルヘルスの基礎知識	こころの健康や病気について理解する	
12	アセスメント	BPS モデル	
13	まとめ①	第 1 回から第 6 回の振り返り	
14	まとめ②	第 7 回から第 12 回の振り返り	
15	試験		
<教科書・参考文献> 授業に必要な資料は、随時用意したものを使用する。			

教科目名	臨床心理学	必修	演習	1 単位
担当者	潟邊 裕江	保育学科 2 年	前期	
<講師紹介> 学園職員。県の心理職として児童相談所や精神保健福祉センター、精神科病院等で勤務をしてきた経験をもとに講義する。				
<講義概要・授業目標> 臨床心理学の範囲は多岐に渡る。基礎的な心理学の知見を紹介しながら、実践とどのように結びついていくか述べていきたい。 近年の保育現場では、子どものみならず保護者への支援がより一層求められているが、他者支援の端緒は他者理解である。臨床現場で用いる他者理解の方法等を実際に体験してもらいながら、学生の自己理解の向上を図り、対人援助職の礎としてもらいたい。				
<評価基準> 出席状況を重視し、授業への参加姿勢、試験の結果などを加味し、成績評価を行う。				
回	講義計画			
1	臨床心理学とは何か	心理学の歴史と臨床心理学の全体構造		
2	ライフサイクルと発達理論	生涯発達の視点から		
3	自我理論と防衛機制	S.Freud の無意識の発見		
4	アタッチメント	J.Bowlby の愛着理論と H.Harlow による代理母実験		
5	ストレスとコーピング	ストレス反応の仕組みとストレスマネジメント		
6	記憶	記憶の分類とその仕組み		
7	学習理論とその応用	人が行動を身につける仕組みを理解する		
8	パーソナリティ	類型論から特性論、ビッグファイブ理論へ		
9	交流分析と対人関係	自我状態の成り立ちとアサーション		
10	幼児教育の意義	非認知能力および脳神経系の発達について		
11	メンタルヘルスの基礎知識	こころの健康や病気について理解する		
12	アセスメント	BPS モデル		
13	まとめ①	第 1 回から第 6 回の振り返り		
14	まとめ②	第 7 回から第 12 回の振り返り		
15	試験			
講義の順番は、入れ替わることがある。 授業に必要な資料は、随時用意したものを使用する。				

教科目名	子どもと運動あそび 必修 演習 1 単位		
担当者	中村 司	保育学科第2学年	前期
<講師紹介> 当学園職員。体育教師として県立高等学校に 年間勤務。これまでの経験をいかし、子どもたちが身体を動かす楽しさを味わえるよう、発達段階に応じた運動あそびを伝えていきたい。 <講義概要・授業目標> 毎時、保育者役と子ども役に分かれて模擬保育を行い、反省会をすることにより、保育者としての実践力を養うことを目的とする。			
<評価基準> 1. 模擬保育で保育者役となった回の指導案、模擬保育での様子などを総合的に評価 2. 毎時の反省会における気づきや感想等の発言、保育者役へのアドバイス等を評価 3. 毎時の授業態度、出席状況等を総合的に評価			
回	演習計画		
1	オリエンテーション	目的について 指導案について	
2～3	指導案作成	指導案を作成する	
4～14	模擬保育 反省会	担当者がたてた指導案に基づき模擬保育を行う 毎時全員で反省会をする	
15	まとめ	全体を振り返り総括する	
<教科書・参考文献> すこやかな子どもの心と体を育む 改訂 運動遊び 井上勝子・高原和子 編著 建帛社			

教科目名	総合表現		選択	演習	1単位
担当者	池田 晶子	保育学科第 2 学年	前期		
<講師紹介> 当学園職員。特別支援学校音楽教諭として 10 年以上勤務。手遊び、器楽合奏、簡単な伴奏づくり、ミュージカルづくり等を通し音楽の楽しさを伝えたい。 <講義概要・授業目標> 音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現が融合したミュージカルをグループで制作し、泉こども園で上演する。 保育所実習を選択する学生に必要とされる力。施設実習の学生も歓迎。 グループ内の学生とコミュニケーションを図りながら、豊かな表現力を身に付け、保育現場で必要となる実践力を身につける。 <評価基準> リハーサル（発表）、本番の演技 と レポート（自己評価など） および 平常点（授業中の話し合いの様子や練習・製作の参加の様子、係活動など）による					
回	講 義 計 画				
1	ミュージカルとは				
2	役割分担の決定、脚本作り ①				
3	役割分担の決定、脚本作り ②				
4	脚本作り ③ 音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ①				
5	脚本作り ④ 音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ②				
6	脚本発表会 音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ③				
7	音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ④				
8	音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ⑤				
9	音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ⑥				
10	中間発表会				
11	音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ⑦				
12	音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ⑧ 通し稽古（体育館）				
13	音楽・背景・小道具・衣装制作、演技・振り付け等練習 ⑨ 通し稽古（体育館）				
14	リハーサル（衣装・背景・小物有）				
15	本番（泉こども園での発表日は班ごとに異なる予定です） とまとめ				
<教科書・参考文献> 特になし					

教科目名	造形実践法		必修	演習	1単位
担当者	長部 直子	保育学科第 2 学年	前期		
<講師紹介> 当学園職員。特別支援学校の美術教諭として勤務経験あり。泉こども園の造形教室も担当している。上手に表そうとするよりも、造形活動を通して、子どものように五感を研ぎ澄まし、感じたことや考えたイメージを自分なりに表現する喜びを感じることを重視し、授業を展開したい。 <講義概要・授業目標> 模擬授業を通して援助者としての保育士の役割を理解する。子ども達への具体的な指導の方法（環境の設定・支援の方法・予測の立て方）を学ぶ。作品作りを通して「美術」に対する知識、理解を深め、創造活動を楽しむ姿勢を養う。 <評価基準> 模擬授業60%+作品40%、出欠状況					
回	講 義 計 画				
1	模擬授業	オリエンテーション、順番決め			
2	講義	造形表現における保育者の役割について			
3	パネルシアターの発表	春季休業の課題である自作のパネルシアター発表			
4	模擬授業①	学生による指導演習と製作体験			
5	模擬授業②	学生による指導演習と製作体験			
6	模擬授業③	学生による指導演習と製作体験			
7	模擬授業④	学生による指導演習と製作体験			
8	模擬授業⑤	学生による指導演習と製作体験			
9	模擬授業⑥	学生による指導演習と製作体験			
10	お店やさんごっこの実践①	オリエンテーション			
11	お店やさんごっこの実践②	商品製作			
12	お店やさんごっこの実践③	商品製作			
13	お店やさんごっこの実践④	商品製作			
14	お店やさんごっこの実践⑤	衣装・看板等の製作			
15	お店やさんごっこの実践⑥	本番「ほせんマーケット」の開催			
<教科書・参考文献> 技法あそび実践ライブ ひかりのくに					

教科目名	造形実践			必修	演習	0.5単位
担当者	長部 直子		保育学科 第2学年	後期		
<講師紹介> 当学園職員。特別支援学校の美術教諭として勤務経験あり。泉こども園の造形教室も担当している。上手に表そうとするよりも、造形活動を通して、子どものように五感を研ぎ澄まし、感じたことや考えたイメージを自分なりに表現する喜びを感じることを重視し、授業を展開したい。 <講義概要・授業目標> 今までに学んだ「造形活動」の知識や経験を生かして、共同制作を行う。材料集めや道具選びについても学生自ら行う。 <評価基準> 作品、出席状況、授業態度						
回	講義計画					
1	カレンダー制作①		オリエンテーション、構想、制作			
2	カレンダー制作②		制作			
3	壁面製作①		材料集め、パーツ製作			
4	壁面製作②		パーツ製作			
5	壁面製作③		パーツ製作			
6	壁面製作④		パネル装飾			
7	壁面製作⑤		パネル装飾			
8	壁面製作⑥		パネル装飾			
<教科書・参考文献> 技法あそび実践ライブ ひかりのくに						

教科目名	社会的養護Ⅲ		選択 演習 0.5単位
担当者	吉田 智里	保育学科第2学年	後期
<講師紹介> 児童養護施設に心理職として約20年務め、子どもたちの心のケアや職員とのコンサルテーションを行っている。自身の経験を活かし、施設現場の様子を伝えていきたい。 <講義概要・授業目標> 子どもの利益を最優先とする児童養護施設の現場において、冷静で的確な判断と柔軟な対応ができる力を養うことを目的とする。各テーマに沿った資料や講義をもとに、ケアワーカーのあり方について意見交換を行うと共に、考えを深める。 <評価基準> 「授業態度」「講義内レポート」「テスト」			
回	講 義 計 画		
1	「児童養護施設の子どもたち」	児童養護施設で暮らす子どもたちの言動とその背景について知り、どのような関わりが必要か考える	
2	「子どもたちの日常生活と様々な業務内容」	日々の生活支援について、具体的な場面や事例を挙げて説明する	
3	「親子関係の調整と関係機関との連携」	子どもたちを取り巻く多くの人々へ親、学校の先生、児童相談所の職員～との連携について説明する	
4	「リビング・ケアとアフターケア」	自己実現と自立に向けての支援について説明する	
5	「治療的援助」	児童養護施設に心理職が配置された背景やその業務内容について説明し、連携について考える	
6	「ケアワーカーの専門性」	児童養護施設で働く職員にはどのようなことが求められているのか説明し、その専門性について考える	
7	「児童養護施設における養育のあり方」	社会的養育の課題とあり方について説明する	
8	「テスト」	児童養護施設で暮らす子どもたちへのケアについてペーパーテスト	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
<教科書・参考文献> 「児童養護施設と被虐待児」 森田喜治 創元社 「この子を受けとめて、育むために 育てる・育ちあういとなみ」 全国児童養護施設協議会			

教科目名	社会的養護 III		演習	0.5 単位
担当者	川畑 治代	保育学科第2 学年	後期	
<講師紹介> 障害者支援施設勤務を経て、現在、発達障害者支援センターパース 勤務。 発達支援、就労支援に携わっている。 精神保健福祉士・公認心理師 <講義概要・授業目標> 学校・会社をはじめ社会の中での発達障害のある人たちへの適切な理解はまだまだ広がっていないのが現状です。 発達障害のある人たちへの理解、そして教育や福祉の制度の中での様々な支援の現状と課題について、具体的な例やトピックスなどを通して共に考えていきたいと思います。 <評価基準> 出席状況、提出レポート、グループワークでの討議、記述式のテストによる。				
回	講義計画			
①	「オリエンテーション、“障害”のある方への理解」 講義内容の説明、“障害”のある方とのかかわりの体験についての話し合い。			
②	「発達障害の理解①」 広汎性発達障害の定義とその実際について学ぶ。 DVD 視聴あり			
③	「発達障害の理解②」 学習障害、ADHD、その他の障害の定義とその実際について学ぶ。DVD 視聴あり			
④	「発達を支援する～幼児期～」 乳幼児期の相談機関や療育方法、家族支援について学ぶ。			
⑤	「学校生活を支援する～学齢期～」 学校や家庭での様々な課題と必要な支援などについて学ぶ。			
⑥	「地域での生活を支援する～成人期～」 おとなになった“障害”をもつ人たちの生活と、支援の実際について学ぶ。			
⑦	「就労支援」 就労支援の現状を知り、社会での理解の大切さについて学ぶ。			
⑧	「テスト」			
<教科書・参考文献> 教科書は使用しません。 資料も含めて、その都度提示していきます。				

教科目名	音楽 II a		選択	演習	1 単位
担当者	池田 晶子		保育学科第 2 学年		前期
(講師紹介) 氏家祐子、櫻町総子、西川章子、西森典子、増森由貴子、若狹理恵氏の 6 名の講師陣により個人レッスンの形で、よりレベルアップしたピアノ奏法や保育現場で使える弾き歌いについての指導を行う。					
<講義概要・授業目標>					
・ピアノ奏法について学ぶ。より一層のレベルアップを図り、音楽的な表現を探究する。					
・保育の場で使える弾き歌いができるように、1 曲でも多くの曲を演習、習得する。					
<評価基準>					
演奏会形式の実技試験 (担当の先生と相談して決めたピアノ自由曲)					
および 平常点 (レッスンの様子、練習量、弾き歌い曲の習得数：4 曲以上、曲数に応じて加点) による					
回	講 義 計 画				
1	ピアノ曲 レッスン ①		弾き歌い曲 レッスン ①		
2	ピアノ曲 レッスン ②		弾き歌い曲 レッスン ②		
3	ピアノ曲 レッスン ③		弾き歌い曲 レッスン ③		
4	ピアノ曲 レッスン ④		弾き歌い曲 レッスン ④		
5	ピアノ曲 レッスン ⑤		弾き歌い曲 レッスン ⑤		
6	ピアノ曲 レッスン ⑥		弾き歌い曲 レッスン ⑥		
7	ピアノ曲 レッスン ⑦		弾き歌い曲 レッスン ⑦		
8	ピアノ曲 レッスン ⑧		弾き歌い曲 レッスン ⑧		
9	ピアノ曲 レッスン ⑨		弾き歌い曲 レッスン ⑨		
10	ピアノ曲 レッスン ⑩		弾き歌い曲 レッスン ⑩		
11	ピアノ曲 レッスン ⑪		弾き歌い曲 レッスン ⑪		
12	ピアノ曲 レッスン ⑫		弾き歌い曲 レッスン ⑫		
13	ピアノ曲 レッスン ⑬		弾き歌い曲 レッスン ⑬		
14	ピアノ曲 レッスン ⑭		弾き歌い曲 レッスン ⑭		
15	テスト ピアノ曲 (演奏会形式) (暗譜で演奏する)				
<教科書・参考文献>					
ピアノ曲レッスン用楽譜 新版 幼児保育の歌とリズム			担当の先生と相談のこと 楠 景二編 音楽之友社		

教科目名	子どもと音楽 Ⅲ		選択	演習	1単位
担当者	池田 晶子	保育学科第 2 学年	通年		
<講師紹介> 当学園職員。特別支援学校教諭として10年以上勤務。手遊び、器楽合奏、簡単な伴奏づくり、ミュージカルづくり等を通し音楽の楽しさを伝えたい。					
<講義概要・授業目標> 保育の場で使える、実用的な伴奏法（コード奏）について理解を深め、演習する。 季節の歌、保育の歌のレパートリーを増やして、初見視奏力、弾き歌い力をつける。					
<評価基準> 音楽理論、英語音名、コードの基本の筆記試験、実技試験（コード奏による弾き歌い）、および 平常点による					
回	講 義 計 画				
1	ステップ1 英語音名 ステップ2 単音伴奏で歌おう				
2	ステップ3 メジャーコード ステップ4 基本形伴奏で歌おう				
3	ステップ5 マイナーコード ステップ6 基本形伴奏で歌おう				
4	3和音まとめ ステップ8 セブンスコード				
5	ステップ8 マイナーセブンス メジャーセブンス				
6	テスト（ペーパーテスト）				
7	伴奏を考えてみよう1 （伴奏パターン等）				
8	伴奏を考えてみよう2 （伴奏パターン等）				
9	実技試験曲 伴奏づくり① 器楽アンサンブル				
10	伴奏づくり② 器楽アンサンブル				
11	伴奏づくり③ 器楽アンサンブル				
12	伴奏づくり④ 器楽アンサンブル				
13	伴奏づくり⑤				
14	実技試験（コード伴奏）				
15	器楽アンサンブル発表とまとめ				
<教科書・参考文献> かんたんメソッド コードで弾きうたい 細田 淳子 他共著 カワイ出版					

教科目名	運動あそび		選択 演習 1 単位
担当者	中村 司	保育学科第2学年	後期
<講師紹介> 当学園職員。体育教師として県立高等学校に勤務したこれまでの経験をいかし、ニュースポーツを幼児向けにアレンジするなど、子どもの発達段階に応じて楽しめるよう工夫することを伝えていきたい。 <講義概要・授業目標> 幼児の発達段階に応じた運動あそび、リズムあそびを学ぶ。 ニュースポーツ等を体験し、幼児向けにアレンジする。 後半は創作ダンスを通して、学生自身の表現力を高める <評価基準> 1. 創作ダンスの発表を試験とし、振付、完成度、班への貢献度等を総合的に評価 2. 毎時の授業態度、出席状況等を総合的に評価			
回	演 習 計 画		
1	オリエンテーション	目的について	
2	人とかかわる遊び	大人・仲間との遊び	
3	物とかかわる遊び	小型遊具・大型遊具を使った遊び	
4	ニュースポーツ（ターゲット型）	カローリング、ペタンク 等	
5	ニュースポーツ（ネット型）	ビーチバレー、インディアカ、フラバールバレー 等	
6・7	スケート	スケートを体験する	
8	創作ダンス	創作ダンスのオリエンテーション	
9～14	創作ダンス練習	グループごとに分かれての練習	
15	創作ダンス発表	泉こども園の園児を招き、班ごとに発表する	
<教科書・参考文献>			

教科目名	老人介護		選択	演習	1単位
担当者	油野 祥子	保育学科第2学年	後期		
<講師紹介>特別養護老人ホームでの勤務経験を活かし、高齢者の特徴や必要とされる支援についてわかりやすい内容の授業を行いたいと思っています。 <講義概要・授業目標> 高齢者の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、老人介護に必要な基礎的知識を習得する。 日常生活を送る上で加齢に伴う諸機能の低下が及ぼす影響を理解し、高齢者の力を活用しながら適切な援助が行えるように講義・実技を通して習得する。 <評価基準> 出席状況、授業態度、レポート内容、試験結果を加味した総合的な判断で評価					
回	講義計画				
1	介護の仕事とは	介護の定義、介護職の仕事内容、やりがいなど			
2	加齢に伴う心と体の変化①	身体機能の変化・健康問題の特徴			
3	加齢に伴う心と体の変化②	発達課題と心理的特徴			
4	介護における倫理観	法的観点から学ぶ倫理観、介護職における苦労・悩みなど			
5	コミュニケーション	加齢に伴う身体的変化を考えたコミュニケーション技術			
6	認知症の基礎的理解	認知症の種類と生活に及ぼす影響			
7	感染予防	加齢に伴う防御機能の低下、手洗いをはじめとした感染予防対策			
8	観察の技術	観察とは、バイタルサイン（体温・脈拍など）の測定			
9	移動・移乗・体位変換	座る・立つ・歩く・寝返りの援助			
10	食事	食べる援助、食事に関連した体のしくみ、様々な栄養摂取方法			
11	入浴・清潔保持	入浴の意義、入浴・清拭・部分浴の援助のポイント			
12	排泄	排泄のしくみ、排泄のケア（失禁のある人へのケア）			
13	着脱・整容・口腔ケア	身支度を整える意味、着脱時のケア、口腔ケア			
14	睡眠	高齢者の睡眠の特徴、睡眠へのケア			
15	試験				
<教科書・参考文献> ※購入する必要はありません ・介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻 介護Ⅰ、中央法規出版、初版第3刷 ・介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ、中央法規出版、初版第2刷					

教科目名	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ		演習 1 単位		
担当者	Ⅱ泉 由美子 Ⅲ黒山 美千代		保育学科第 2 学年	通 年	
＜講師紹介＞ 黒山 美千代：当学園職員。県職員（福祉職）として児童相談所、障がい児（者）施設、保健福祉センターで勤務。 泉 由美子：当学園職員。公立幼稚園・保育園で 40 年間勤務。現場での豊富なエピソードから現場で求められている事や実習の意義を知らせる。 ＜講義概要・授業目標＞ 1 保育実習Ⅰの実習で学んだことを発展的に深化させる。 2 既習の教科の内容やその関連性を踏まえた実習指導案を作成し実践力を養う。 3 実習時の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践を通して学ぶ。 4 実習の事後指導を通して、実習のまとめと自己評価を行い、新たな課題を明確にする。 ＜評価基準＞ 実習における事前・事後学習への取り組み・実習施設の評価・巡回時の様子・記録物の内容・提出状況などを勘案した総合評価・授業はすべて出席することが前提。					
回	講 義 計 画		時間	Ⅱ担当	Ⅲ担当
1	保育実習Ⅱ・Ⅲについて	目的と内容を理解する	2	泉	黒山
2	乳児保育について	乳児保育について理解する	2	（ 担当者 ）	
3	オリエンテーション1	施設の概要を理解する	2	保育所・施設担当者	
4	オリエンテーション2	実習内容の打合せをする	2	保育所・施設担当者	
5	実習指導案・援助計画の作成	指導計画・援助計画について（計画を立案し実践する）	2	泉	黒山
6	実習ⅡbⅢb・幼稚園実習のまとめ	実習体験を話し合いまとめる 自己課題を明確にする。	2	泉	黒山
7	乳児保育のまとめ	乳児保育の体験を話し合う	2	（ 担当者 ）	
8	保育所・施設実習について	実習の進め方	2	泉	黒山
9	実習での計画立案について	指導計画・援助計画について	2	泉	黒山
10	実習に向けての心得	実習先との連絡・調整をする	2	泉	黒山
11	オリエンテーション	施設の概要を理解する	2	保育所・施設担当者	
12	オリエンテーション	実習内容について理解する	2	保育所・施設担当者	
13	地域社会との連携について	地域との連携や支援など	2	泉	黒山
14	保育所・施設実習のまとめ	実習のまとめと体験発表	2	泉	黒山
15	学園での全実習を終えて	自己の課題の明確化	2	泉	黒山
＜教科書・参考文献＞ ・福祉施設実習パーフェクトガイド わかば社 ・幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド わかば社 ・保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 フレーベル館					

教科目名	特別講義			必修	講義	1単位
担当者	2年担任、各講師		保育学科第2学年	通年		
<講義概要・授業目標> 就職に向けて、保育者として、また社会人として必要な知識及び態度を身に付けることを目的とする。そのため各分野の専門家を招いての授業を中心に受講する。 <評価基準> 授業態度および出席状況						
回	講 義 計 画					
1	就職学年の心構え、就職希望調査について					
2	就職希望に関する個別面談①					
3	就職希望に関する個別面談②					
4	就職希望に関する個別面談③					
5	就職希望に関する個別面談④					
6	作文・小論文の書き方					
7	求人票の見方、社会人マナー					
8	履歴書の書き方					
9	外部講師による特別講座					
10	卒業アルバム用写真撮影、アルバム作成委員の選出、アルバム作成ガイダンス					
11						
12	保育士登録について（手続き方法）					
13	保育士登録について（申請書作成）					
14	金融リテラシーについて					
15	卒業生と語る会					
<その他> 講義内容の順序は入れ替わることがある。						

教科目名	哲学		講義	2 単位
担当者	土佐 明	保育学科 2 学年	前期	
<講師紹介> 大学では哲学科に属し、大学院の修士・博士課程では主として宗教哲学を専攻した。その後は研究で得られた知見を実践の場において活用しつつ、各大学・学校で講師を務めている。 <講義概要・授業目標> 哲学 (philosophy) とは、歴史的には古代のギリシアの地に端緒をもつ人間の知の営みであるが、この知の営みの歴史は現代の我々にも大事な問いを投げかけている。この講義ではそのような哲学の問いのいくつかを採り上げ、(映画などもヒントにしながら) 気軽に考えることによって、受講者の哲学的思惟を養うことを目指す。 <評価基準> 原則として、学期末に実施する試験によって評価する。				
回	講 義 計 画			
1	哲学とは何なのだろうか①	「哲学」という語の由来から		
2	哲学とは何なのだろうか②	古代ギリシアにおける哲学のはじまり		
3	哲学とは何なのだろうか③	知を愛するということについて		
4	疑うことから始めてみる①	懐疑主義について		
5	疑うことから始めてみる②	デカルトの方法的懐疑		
6	心をめぐる問題①	心身問題		
7	心をめぐる問題②	他我問題など		
8	ことばの意味とは何か	言語の哲学		
9	人間に自由は存在するのか①	帰責可能性から考える		
10	人間に自由は存在するのか②	自由と決定論		
11	人の同一性をどう考えるか	身体説と心理説		
12	行為の〈よさ〉とは何か①	功利主義		
13	行為の〈よさ〉とは何か②	義務論		
14	哲学にとって宗教とは	宗教の哲学へ		
15	定期試験			
<教科書・参考文献> 教科書は特に指定せず、資料を配付する。 参考文献等は授業中にその都度紹介するが、例えば、トマス・ネーゲル『哲学ってどんなこと?—とっても短い哲学入門』(昭和堂) などを読んでおくとう理解の助けになるであろう (購入する必要は特にない)。				

教科目名	社会学		講義	2単位
担当者	田邊 浩	保育学科第2学年	後期	
<講師紹介> 金沢大学の教員です。本学では10年以上にわたって、講師を務めています。社会学は「社会」について研究する学問ですが、私たちはみな社会のなかで生きているので、社会についてある程度知っているはずです。実際には私たちにとってかなり身近な学問で、特に難しいことはありませんから、身構えることなく、積極的に受講してください。 <講義概要・授業目標> 私たちは、げんにある社会を必然であるかのように生きています。しかし、ひとたび懐疑の目を向けるなら、その社会はたまたまそのようにして成り立っているすぎないことが見えてきます。「当たり前だと思っていたことが、全然当たり前ではなかった」ことを発見する学問、それが社会学です。この授業では、そうした社会学的な思考方法を身につけることを目的とします。 <評価基準> 平常点（授業への積極的参加60%）と学期末レポート（40%）により評価します。				
回	講義計画			
1	社会学とは何か	社会学的なモノの見方と社会学を学ぶことの意義について		
2	文化と社会	本能の壊れた動物としての人間と文化の存在、文化の多様性		
3	社会化とライフサイクル	子どもの社会化と青年期の社会化について		
4	同調と逸脱	犯罪の社会学的な説明について		
5	現代社会における親密性	現代社会における恋愛と結婚について		
6	家族	家族の構造と機能、およびその変容について		
7	身体	摂食障害、生殖医療、健康について		
8	ジェンダーと社会	社会文化的性差としてのジェンダーについて		
9	社会階層と社会階級	社会的な不平等と貧困の問題について		
10	教育	教育の社会的機能について		
11	マス・コミュニケーションと情報化	マス・メディアと人々に対するその影響について		
12	都市と都市生活	都市の起源と、都市化の趨勢、グローバル都市について		
13	エスニシティ	国家と民族、エスニシティ概念について		
14	社会生活のグローバル化	グローバル化という現象とその影響、変動する世界について		
15	社会学の調査研究方法	社会調査の意義、量的調査と質的調査の長所と短所について		
<教科書・参考文献> テキスト社会学（星野 潔・杉浦郁子 編）				

教科目名	情報処理		演 習 1 単位
担当者	酒井 寛一	保育学科 2 学年	前 期
<講師紹介> パソコン技能講師として 30 年以上の経験があり、P C 学院を設立運営。石川県の職業訓練校の講師、及びロボットプログラミングを幼稚園児から中学生を対象に現在も教えています。その経験を活かし、わかりやすい内容の情報処理授業に心がけてまいります。			
<講義概要・授業目標> 保育現場で生かすことができるコンピュータ及びソフトの使用技術を学ぶ。他者の作成した知的財産や個人情報を取り扱う中で、保育事例を元に保育士として必要な情報処理能力の習得を目指す。			
<評価基準> 授業態度と提出課題の評価をポイント化し、終了テストのポイントに加算して、総合評価をします。			
回	講 義 計 画		
1	パソコンのしくみを学ぼう ファイルとフォルダの基礎知識	Windows の概観・マウスとキーボード ファイルとフォルダの基礎知識と拡張子について	
2	描画ツール操作演習 かんたんなイラスト作成	保育園地図作成・図形の組み合わせでイラスト作成 画像の書式設定・グループ化設定	
3	Microsoft Word ワープロソフトの機能と操作定	リボンの機能・文書の作成編集・画像の取込みと編集 表の作成と編集・図の取込と SmartArt の活用	
4	Microsoft Word 複雑なレイアウト「園だより」作成	写真・図形・クリップアート・ワードアートの利用、 テキストBOXの挿入、ページ罫線の設定	
5	Microsoft Word いろいろなおたよりやカードの作成	表作成応用（セルの幅・高さの調整、罫線の変更、セルの塗りつぶし、文字の配置変更、表の移動方法）	
6	Microsoft Word 中間テスト	保育だよりを作成して、データを提出	
7	Microsoft Excel Excel の概要と基本操作	表の作成、データベース管理、計算・集計機能 リボンの機能、ワークシートとセル・ブック、データの種別	
8	Microsoft Excel セルの書式と書式設定	セルの表示形式、セルの配置、文字のフォント、罫線とセルの塗りつぶし、セルの編集、入力規則。	
9	Microsoft Excel 計算式の記述・関数の利用	演算子を使用した計算式、ワークシート関数の記述形式 グラフ作成、データベース機能の利用	
10	Microsoft Excel 帳表作成・入力規則・グラフ作成	クラス表の作成、年間カレンダーの作成、 画像の貼り付け、入力規則、ファイル保存	
11	Microsoft Excel 中間テスト	表計算習熟度テスト・帳表を作成して、データを提出	
12	Microsoft PowerPoint プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの目的、要点 PowerPoint の基本機能と基本操作、スライドの作成	
13	Microsoft PowerPoint 各種コンテンツの挿入と設定	スライドの動作および効果の設定（切替効果設定、アニメーション設定）、スライドショーの実行	
14	プレゼンテーション演習 作図・他のスライドの利用	案内図スライドの作成、既存プレゼンテーションのスライドを利用する方法	
15	最終テスト 保育園の案内プレゼンテーション作成	画面切替効果・アニメーションなどを利用した保育園の案内プレゼンテーションを作成し、完成データの提出	
<教科書・参考文献> 保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016 対応版 (株)萌文書林			

教科目名	外国語		演習 1 単位
担当者	細川 真衣	保育学科 2 学年	前期
<講師紹介> 中学から大学までいろいろな学校で講師として約20年勤務しています。英語の映画、物語、歌、動画などを取り入れ、英語に苦手意識がある人でも楽しく英語に触れながら使える英語を身につけられる授業を目指しています。 <講義概要・授業目標> 将来の職場である保育園で必要となる英語を学びながら、日常生活で英語が必要になったときに英語でやり取りができるようになることを目指します。具体的な場面を想定したペアワークやグループワークなど多様な活動を通して実際に英語を使い、英語話者の子どもや保護者とのコミュニケーションを円滑に図れるようになるための英会話力の養成を図ります。会話力と共に、音声を用いたリスニング能力の向上、保育の現場で必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努めます。			
<評価基準> 授業課題、小テスト、前期末試験			
回	講 義 計 画		
1	ガイダンス、自己紹介、Pre-Unit 英語で話しかけられたときの応対		
2	Unit 1 ① 挨拶・自己紹介、人に何かを頼む表現		
3	Unit 1 ② 保育時間、英語での自己紹介		
4	Unit 2 ① 園内の案内、位置を伝える表現		
5	Unit 2 ② 園の構成員、戸外での道案内		
6	Unit 3 ① 登園時の会話、今日の調子を聞く・答える表現		
7	Unit 3 ② 持ち物、数字、手遊び歌		
8	Unit 4 ① 作時間での会話、好きなもの／嫌いなものを聞く what の表現		
9	Unit 4 ② 工作やお絵描きで使う道具、英語で「かぐや姫」を読む		
10	Unit 5 ① 園外散歩での会話、場所を表す表現		
11	Unit 5 ② 集団で行う園活動、教室内の者の場所を示す		
12	Unit 6 ① 園庭での会話、人に何かするよう／しないように言う表現		
13	Unit 6 ② 遊具の名前、英語で「桃太郎」を読む		
14	Unit 7 ① 保護者からの相談、食に関する好き嫌い・アレルギーの有無を伝える表現		
15	前期末試験		
<教科書・参考文献> 土屋麻衣子著「Happy English for Childcare 保育のための基礎英語」(金星堂)			

教科目名	外国語		演習 1 単位
担当者	細川 真衣	保育学科 2 学年	後期
<講師紹介> 中学から大学までいろいろな学校で講師として約20年勤務しています。英語の映画、物語、歌、動画などを取り入れ、英語に苦手意識がある人でも楽しく英語に触れながら使える英語を身につけられる授業を目指しています。 <講義概要・授業目標> 将来の職場である保育園で必要となる英語を学びながら、日常生活で英語が必要になったときに英語でやり取りができるようになることを目指します。具体的な場面を想定したペアワークやグループワークなど多様な活動を通して実際に英語を使い、英語話者の子どもや保護者とのコミュニケーションを円滑に図れるようになるための英会話力の養成を図ります。会話力と共に、音声を用いたリスニング能力の向上、保育の現場で必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努めます。			
<評価基準> 授業課題、小テスト、後期末試験			
回	講 義 計 画		
1	Unit 7 ② 手洗いや歯磨き、食材の名前、肉じゃがのレシピを英語で書く		
2	Unit 8 ① お昼寝時間の会話、しなければならないことを伝える表現		
3	Unit 8 ② お昼寝に関する表現、英語圏のジェスチャー、手遊び歌		
4	Unit 9 降園時の会話、1日の活動と様子を伝える表現、クリスマスについて調べる		
5	Unit 10 ① 園行事予定についての会話、「もし～なら」という仮定の表現		
6	Unit 10 ② 園行事の英語名、体操の名称		
7	Unit 11 ① ネイティブとの打ち合わせ、Shall, Will を用いた表現と応答		
8	Unit 11 ② 時刻を表す英語、歌 “Old MacDonald Had a Farm”		
9	Unit 12 ① 体調不良の園児との会話、病気やけがの症状を伝える表現		
10	Unit 12 ② 医療品の英語、身体の部位・家系図		
11	Unit 13 ① 保護者との電話、電話応対に便利な表現		
12	Unit 13 ② 留守番電話の英語、英語で「浦島太郎」を読む		
13	Unit 14 ① 最後の日の会話、お礼の表現		
14	Unit 14 ② 動きの表現、誕生日カード		
15	後期末試験		
<教科書・参考文献> 土屋麻衣子著「Happy English for Childcare 保育のための基礎英語」(金星堂)			